



**imageRUNNER
ADVANCE**

C9075 PRO/C9065 PRO/C7065/C7055

機能追加／変更のお知らせ

はじめに

本製品の機能に、追加／変更がございます。このお知らせをお読みになり、取扱説明書とともに保管してください。



本書で使われている画面は、特にお断りがない限り、imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO にマルチカラーイメージリーダーユニット・A1、スーパー G3FAX ボード、コピートレイ・P1、ペーパーデッキユニット・A1 が装着されている場合のものです。

※ Canon、Canon ロゴ、imageRUNNER ADVANCE はキヤノン株式会社の商標です。

目次

システムバージョンアップ時の注意事項	5
デフォルト設定の変更内容がクリアされます.....	5
オプションに関する変更	6
オプションが追加されました.....	6
設定 / 登録に関する変更	7
設定 / 登録一覧表.....	7
追加項目.....	7
削除項目.....	10
オートクリアの設定変更を制限できるようになりました（オートクリア移行時間の制限）.....	10
IPSec 設定で登録するセキュリティポリシーの暗号化アルゴリズムが変更されました.....	11
SNMPv1 で専用コミュニティを設定できるようになりました SNMPv3 の暗号化アルゴリズムに AES を選択できるようになりました.....	15
SNMPv1 で専用コミュニティを設定する.....	15
SNMPv3 ユーザーを追加する.....	16
フルカラー時の色味を鮮やかにできるようになりました（フルカラー時の鮮やかさ設定）.....	17
PDF の下限バージョンを指定できるようになりました（PDF の下限バージョン指定）.....	17
Rights Management サーバーを設定できるようになりました（Rights Management サーバー設定）.....	18
PCL のステータスプリント、フォントリストを出力できるようになりました（PCL）.....	19
PCL プリントを設定できるようになりました（PCL 設定）.....	20
PCL 設定メニューについて.....	20
PCL 設定メニューの設定項目.....	22
プリンタードライバからのジョブ制限を詳細に指定できるようになりました.....	29
メールアドレスの入力を補完できるようになりました（メールアドレスの入力補完）.....	29
認証ユーザー名をファクス送信時に発信人の名称として使用できるようになりました（認証ユーザー名を発信人として使用）.....	30
ボックスのセキュリティを設定できるようになりました（ボックスのセキュリティ設定）.....	30
ボックスの暗証番号を 7 桁固定にする.....	30
プリンタードライバから保存時のプリント設定の変更を制限する.....	31
メモリーメディアへのファイル保存 / プリントを制限できるようになりました（メモリーメディア設定）.....	31
ホールド機能を使用できるようになりました（ホールド機能を使用）.....	31
ホールドジョブの自動削除までの時間を設定できるようになりました（ホールドジョブの自動削除までの時間）.....	32
宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました.....	32
SSL 暗号化通信に必要な鍵ペアを生成する際に、署名アルゴリズムと鍵のアルゴリズムを選択できるようになりました.....	33
監査ログの取得を設定できるようになりました（監査ログを取得）.....	33
FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）.....	34
スキャン機能に関する変更（[ファクス]、[スキャンして送信]、[スキャンして保存]）	35
[ファクス]、[スキャンして送信]、[スキャンして保存] でフリーサイズを選択してスキャンできるようになりました.....	35
[スキャンして送信]、[スキャンして保存] で Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました.....	36
プリント機能に関する変更（[コピー]、[保存ファイルの利用]、[セキュアプリント]、状況確認 / 中止）	38
[コピー]、[保存ファイルの利用] で中綴じフィニッシャー・B1 装着時にサドル折りを設定してプリントできるようになりました.....	38
[セキュアプリント] と状況確認 / 中止画面で、割込 / 優先プリントできるようになりました	

(割込 / 優先プリント).....	38
ジョブ状況画面にプリント待ち時間が表示されるようになりました.....	40
プリンタードライバから2色カラーでプリントできるようになりました.....	41
[ウェブブラウザ] で Web ページのプリントが非対応になりました.....	43
PCL プリンタードライバに対応してプリントできるようになりました.....	43
アドバンスドボックスに関する変更.....	44
アドバンスドボックス管理者がコンピューターからアクセスしたときの操作権限が拡がりました.....	44
アドバンスドボックス内のファイルが画像表示できるようになりました.....	44
カスタムメニュー機能に関する変更.....	46
[カスタムメニュー] でマイボタンの使用を制限できるようになりました (マイボタンの使用).....	46
リモート UI 機能に関する変更.....	48
URI 送信を設定できるようになりました (URI 送信設定).....	48
本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する.....	53
監査ログを管理できるようになりました (監査ログのエクスポート / クリア).....	54
監査ログ管理機能と管理できるログの種類について.....	54
ログを管理する.....	55
アドレス帳のエクスポート / インポートにパスワードを含めることができるようになりました.....	59
宛先表をファイルに保存する (エクスポート).....	59
宛先表をファイルから読み込む (インポート).....	60
鍵ペアとサーバー証明書、CA 証明書のアルゴリズムが変更されました.....	62
鍵ペアとサーバー証明書.....	62
CA 証明書.....	62
MEAP 機能に関する変更.....	63
SMS は常時、SSL 暗号化通信で使用するようになりました.....	63
SMS 使用時に MEAP アプリケーションの設定情報を管理できるようになりました (MEAP アプリケーションの設定情報管理).....	64
SMS 使用時に MEAP アプリケーションのログを管理できるようになりました (MEAP アプリケーションのログ管理).....	66
アプリケーションログのダウンロード.....	66
アプリケーションログの削除.....	67
SSO-H 使用時にデフォルトパスワードでのログインを許可できるようになりました (管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する).....	69
クラウドサービスが利用できるようになりました.....	71
情報セキュリティ規格 (IEEE 2600) について.....	72
IEEE 2600 で定められたセキュリティについて.....	72
ホールド機能の追加.....	73
ジョブホールド機能について.....	73
プリントとホールド.....	73
ホールドキューとは.....	73
imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO と関連アプリケーション.....	74
ジョブチケットを利用したワークフロー.....	75
ホールド画面について.....	75
ホールドキューにファイルを保存する.....	77
ボックスからファイルを移動 / 複製する.....	77
ホールドキュー内のファイルをプリントする.....	79
ジョブを中止する.....	80
タッチパネルディスプレイから中止する.....	80
状況確認 / 中止画面から中止する.....	80
プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する (試しプリント).....	81
ホールドキュー内のファイルを整理する.....	82
ジョブの詳細情報を確認する.....	82
ジョブの画像を確認する.....	83
ボックスへジョブを移動 / 複製する.....	83
ジョブを削除する.....	84
優先プリントする.....	85

ジョブの部数を変更する（部数）	85
プリントした用紙を仕分ける（仕上げ）	86
ページをそろえてプリントする（ソート）	89
ページごとに仕分けてプリントする（グループ）	91
ページ順に仕分けてホチキスする（ホチキス）	92
ページ範囲ごとの設定を編集する	95

システムバージョンアップ時の注意事項

デフォルト設定の変更内容がクリアされます

システムバージョンアップのため、コントローラーバージョンの先頭2桁を「50」以上にしたときは、以下のデフォルト設定の変更がクリアされます。

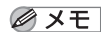
■ [保存ファイルの利用]→[ボックス]→[送信する]

- ファイル形式の設定
- その他の機能の設定

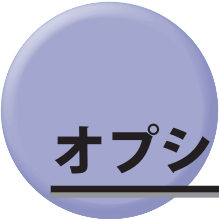
■ [受信トレイ]→[システムボックス]→[メモリー受信ボックス]→[送信する]

- ファイル形式の設定
- その他の機能の設定

デフォルトの設定を変更している場合は、あらかじめ設定を確認のうえ、システムバージョンアップ完了後に再度設定を行ってください。



- コントローラーバージョンを確認するには、操作パネルの **123** (カウンター確認) を押したあと、[デバイス構成確認] を押します。
- デフォルト値は、[保存ファイルの利用]、[受信トレイ]ともに、以下のとおりです。
 - ファイル形式の設定：PDF (高圧縮)
 - その他の機能の設定：設定なし



オプションに関する変更

オプションが追加されました

本製品の性能を高めることができるオプション製品が以下のように追加されました。

■ コピーカードリーダー・F1

コントロールカードを使用して部門別 ID 管理を行います。

■ PCLエミュレーション拡張キット

PCL プリンターとして使用するためのオプションです。PCL プリンタードライバーは、Windows 英語版にのみ対応しています。ドライバー画面は英語で表記されています。

■ PCLバーコードプリント拡張キット・D1

バーコードプリントを行なうためのオプションです。

設定 / 登録に関する変更

設定 / 登録一覧表

-  **メモ** 機器情報配信項目の表示は以下のとおりです。機器情報配信機能については、e-マニュアル>セキュリティを参照してください。
- ：機器情報配信対象
 - ×：機器情報配信対象外

追加項目

■ 環境設定：タイマー／電力設定

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
オートクリア移行時間の制限	ON、OFF	OFF	○	P.10

■ 環境設定：ネットワーク

[IPSec 設定] と [SNMP 設定] に太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報配信項目	参照ページ
IPSec 設定 *1					P.11
登録：IKE 設定					
IKE モード	メイン、アグレッシブ	メイン	○	×	
認証方式	事前共有鍵方式、電子署名方式	事前共有鍵方式	○	×	
認証 / 暗号化アルゴリズム	自動、手動指定	自動	○	×	
	認証 / 暗号化アルゴリズム：手動指定				
	・ 認証 SHA1、 SHA2	SHA1	○	×	
	・ 暗号 3DES-CBC、AES-CBC	3DES-CBC	○	×	
	・ DH グループ Group1 (762)、Group2 (1024)、Group14 (2048)、 ECDH-P256、ECDH-P384	Group2 (1024)	○	×	
登録：IPSec 通信設定					
有効期間：時間	1 ～ 65535 分	480	○	×	
有効期間：サイズ	1 ～ 65535 MB	65535	○	×	
PFS	ON、OFF	OFF	○	×	
認証 / 暗号化アルゴリズム	自動、手動指定	自動	○	×	
	認証 / 暗号化アルゴリズム：手動指定				
	ESP、 ESP(AES-GCM)、AH(SHA1)	ESP	○	×	
	ESP 設定時： ESP 認証 SHA1、NULL	SHA1	○	×	
	ESP 暗号 3DES-CBC、AES-CBC、NULL	3DES-CBC	○	×	
接続モード	トランスポートモード、表示のみ		○	×	

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	リモート UI による設定	機器情報 配信項目	参照ページ
SNMP 設定					P.15
SNMPv1 を使用	ON、OFF	ON	○	○	
専用コミュニティ設定					
専用コミュニティ	ON、OFF	ON	○	×	
MIB アクセス権限	読込 / 書込、読込のみ	読込 / 書込	○	×	
SNMPv3 を使用	ON、OFF	OFF	○	×	P.16
ユーザー設定					
ユーザー設定の有効 / 無効		-	○	×	
登録	ユーザー名、MIB アクセス制限、セキュリティ設定、認証アルゴリズム (MD5、SHA1)、認証パスワード、暗号化アルゴリズム (DES、AES)、暗号化パスワード	-	○	×	
詳細 / 編集	ユーザー名、MIB アクセス制限、セキュリティ設定、認証アルゴリズム (MD5、SHA1)、認証パスワード、暗号化アルゴリズム (DES、AES)、暗号化パスワード	-	○	×	
削除	-	-	○	×	

*1 IPsec セキュリティボードを有効にしているときに表示される項目です。

■ 調整／メンテナンス：画質調整

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
フルカラー時の鮮やかさ設定	標準、レベル 1、レベル 2	標準	×	P.17

■ ファンクション設定：共通

[ファイル生成] に、以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
PDF の下限バージョン指定	指定しない、1.5、1.6、1.7	指定しない	○	P.17
Rights Management サーバー設定				P.18
サーバーの URL	サーバーの URL：最大 128 文字	(空欄)	×	
ユーザー名	ユーザー名：最大 128 文字	(空欄)	×	
パスワード	パスワード：最大 32 文字	(空欄)	×	
ユーザー毎パスワードを使用	ON、OFF	OFF	×	

■ ファンクション設定：プリンター

太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
PCL^{*2}				P.19
ステータスプリント	プリント	—	×	
フォントリスト	プリント	—	×	
プリンタージョブの制限	ON、OFF	OFF	○	P.29
	・ ON 設定時 許可するジョブの選択 プリント保留、プリント保留 +セキュアプリント	プリント保留	×	

^{*2} PCL エミュレーション拡張キットを有効にしている場合に表示される項目です。

また、[プリンター設定] の [仕様設定] に [PCL 設定] が追加されました。詳しくは「PCL プリントを設定できるようになりました (PCL 設定)」(→ P.20) を参照してください。

■ ファンクション設定：送信

[E メール / ファクス設定] と [ファクス設定] に、以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
E メール / ファクス設定				
メールアドレスの入力補完	ON、OFF	ON	○	P.29
ファクス設定^{*3}				
認証ユーザー名を発信人として使用	ON、OFF	OFF	○	P.30

^{*3} スーパー G3FAX ボード、リモート FAX 送信キットのいずれかを装着している場合に表示される項目です。

■ ファンクション設定：ファイル保存／利用

[ボックス設定] に以下の項目が追加されました。また、[メモリーメディア設定] が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
ボックス設定				
ボックスのセキュリティー設定	ボックス暗証番号 7 桁固定 / アクセス制限：ON、OFF	OFF	○	P.30
	プリンタードライバーから保存時のプリントの表示：ON、OFF	ON	○	P.30
メモリーメディア設定				
スキャン / プリント機能を使用	スキャン機能を使用：ON、OFF	ON	○	P.31
	プリント機能を使用：ON、OFF	ON	○	P.31

■ ファンクション設定：ホールド^{*4}

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
ホールド機能を使用	ON、OFF	ON	×	P.31
ホールドジョブの自動削除までの時間	1、2、3、6、12 時間、1、2、3、7、30 日、なし	3 日	×	P.32

^{*4} この機能は、imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO / C9065 PRO でお使いいただけます。

■ 宛先設定

以下の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める	ON、OFF	OFF	○	P.32

■ 管理設定：デバイス管理

太字の項目が追加されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目	参照ページ
証明書設定				P.33
証明書設定：鍵生成：ネットワーク通信用の鍵生成				
鍵の名前	最大 24 文字	(空欄)	×	
署名アルゴリズム	SHA1、SHA256、SHA384、SHA512	SHA1	×	
鍵のアルゴリズム	RSA	RSA	×	
鍵の種類	512、1024、 2048、4096	512	×	P.33
監査ログを取得	ON、OFF	OFF	×	
暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする ^{*1}	ON、OFF	OFF	×	P.34

^{*1} IPsec セキュリティボードを有効にしているときに表示される項目です。

削除項目

■ ファンクション設定：共通

[スキャン動作] から以下の項目が削除されました。

設定／登録項目	設定項目	工場出荷時の状態	機器情報配信項目
スキャン動作			
リモートスキャン時のデータ圧縮率	高圧縮、普通、低圧縮	普通	○

オートクリアの設定変更を制限できるようになりました（オートクリア移行時間の制限）

本機能を「ON」に設定すると、一般ユーザーは以下の機能を操作できなくなります。

- [環境設定]（設定／登録）の [オートクリア移行時間]（→e-マニュアル＞設定/登録）
- [環境設定]（設定／登録）の [オートクリア後の機能]（→e-マニュアル＞設定/登録）

1 Ⓢ（設定／登録）→ [環境設定] → [タイマー / 電力設定] → [オートクリア移行時間の制限] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

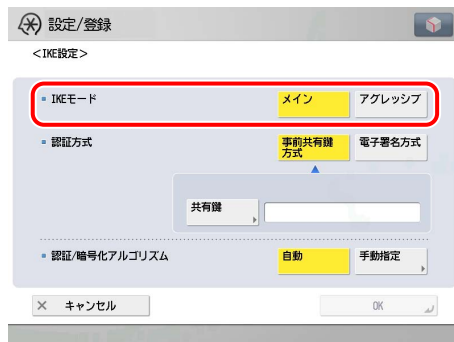
IPSec 設定で登録するセキュリティポリシーの暗号化アルゴリズムが変更されました

[IPsec 設定] で新しいセキュリティポリシーを登録する際、[IKE 設定] と [IPsec 通信設定] で使用する認証と暗号化のアルゴリズムが変更されました。[IKE 設定] と [IPsec 通信設定] の設定方法は以下のとおりです。

重要 この機能は、IPSec セキュリティボードが装着されている場合に使用できます。

メモ [IPsec 設定] でのセキュリティポリシー登録方法については、e-マニュアル> ネットワークを参照してください。

- 1 (設定／登録) → [環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] → [IPSec 設定] を押したあと、<IPSec を使用> を「ON」にします。
- 2 <ポリシー外パケットの受信> の [登録] を押します。→ポリシー名に名称を入力したあと、[IKE 設定] を押します。
- 3 登録画面で [IKE 設定] を押して IKE フェーズ 1 で使用するモードを選択します。



[メイン]：メインモードを設定します。IKE セッション自体を暗号化するため、セキュリティが強固です。

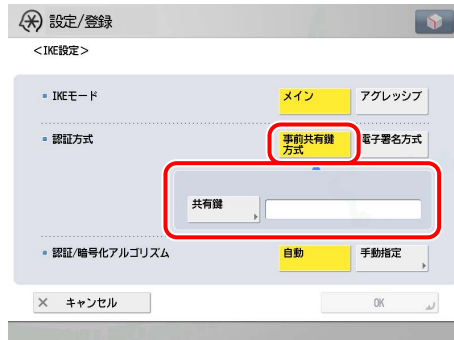
[アグレッシブ]：アグレッシブモードを設定します。暗号化されないため IKE セッションが高速化します。

4 IKE 設定画面で IKE フェーズ 1 に使用する認証方式を指定します。

事前共有鍵方式を選択する場合は、事前共有鍵を準備してください。電子署名方式を選択する場合は、事前に CA 証明書の登録（→ e-マニュアル＞セキュリティ）、鍵ペアファイルと証明書ファイルのインストール（→ e-マニュアル＞リモート UI）を行ってください。

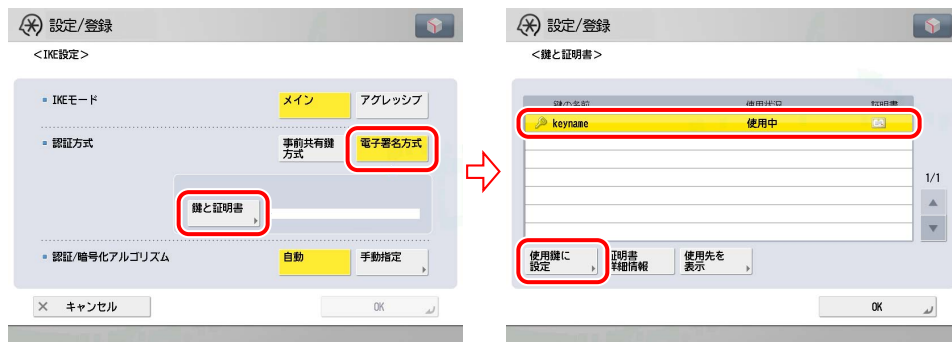
● 事前共有鍵方式を設定する：

- <認証方式>の「事前共有鍵方式」→「共有鍵」を押して、事前共有鍵を入力します。



● 電子署名方式を設定する：

- <認証方式>の「電子署名方式」→「鍵と証明書」を押して、使用したい鍵ペアを選択したあと「使用鍵に設定」を押してIPSecに使用する鍵ペアを登録します。



「Device Signature Key」（機器署名用鍵ペア）、および「AMS」（アクセス制限用鍵ペア）は使用鍵に設定できません。

重要 署名アルゴリズムの「RSA-MD5」、「RSA-MD2」を使用している鍵ペアを選択した場合に IPSec 通信を FIPS（連邦情報処理規格：Federal Information Processing Standards）140-2 に準拠させたときは、この鍵ペアを設定したポリシーは無効（OFF）になります。（→ FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）：P.34）

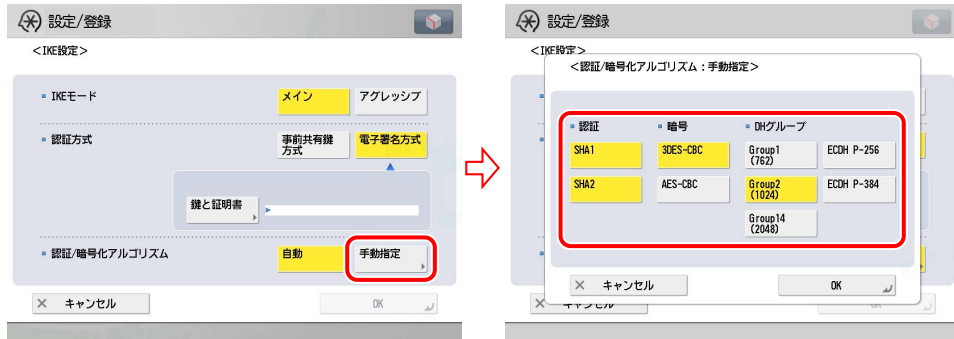
メモ

- 鍵と証明書画面で鍵ペアを選択したあと「証明書詳細情報」を押すことによって、証明書の内容を確認できます。また、証明書詳細情報画面で「証明書検証」を押して証明書を検証することもできます。
- 鍵と証明書画面で<使用状況>に「使用中」と表示されている鍵ペアを選択したあと「使用先を表示」を押すことによって、鍵ペアの用途を確認できます。

5 IKE 設定画面で、IKE フェーズ 1 に使用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。

● 認証と暗号化のアルゴリズムを指定する：

- <認証/暗号化アルゴリズム>の「手動指定」を押して、IKE SAに適用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。



< 認証 > の [SHA1]： 認証アルゴリズムに SHA1 (Secure Hash Algorithm 1) を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。

< 認証 > の [SHA2]： 認証アルゴリズムに SHA2 (Secure Hash Algorithm 2) を設定します。256 ビット、および 384 ビットのハッシュ値をサポートします。

< 暗号 > の [3DES-CBC]： 暗号化アルゴリズムに 3DES (Triple Data Encryption Standard)、暗号モードに CBC (Cipher Block Chaining) を設定します。3DES は、DES を 3 回行うため処理時間は長くなりますが、暗号の強度は高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。

< 暗号 > の [AES-CBC]： 暗号化アルゴリズムに AES (Advanced Encryption Standard)、暗号モードに CBC を設定します。AES は、128、192、および 256 ビットの鍵長の暗号鍵をサポートします。サポートする鍵長が長いので、暗号の強度が高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。

< DH グループ > の [Group1(762)]： DH (Diffie-Hellman) 鍵交換方式に Group1 を設定します。Group1 では、762 ビットの MODP (Modular Exponentiation) をサポートします。

< DH グループ > の [Group2(1024)]： DH 鍵交換方式に Group2 を設定します。Group2 では 1024 ビットの MODP をサポートします。

< DH グループ > の [Group14(2048)]： DH 鍵交換方式に Group14 を設定します。Group14 では 2048 ビットの MODP をサポートします。

< DH グループ > の [ECDH-P256]： 256 ビットの鍵長の ECDH (Elliptic Curve Diffie Hellman) 鍵交換方式を設定します。

< DH グループ > の [ECDH-P384]： 384 ビットの鍵長の ECDH 鍵交換方式を設定します。

● 認証と暗号化のアルゴリズムを自動で設定する：

- <認証/暗号化アルゴリズム>の「自動」を押します。

認証と暗号化のアルゴリズムの優先順位は、以下のとおりです。

優先順位	認証アルゴリズム	暗号化アルゴリズム	DH 鍵交換方式
1	SHA1	AES (128 ビット)	Group2
2	SHA2 (256 ビット)		
3	SHA2 (384 ビット)		
4	SHA1	AES (192 ビット)	
5	SHA2 (256 ビット)		
6	SHA2 (384 ビット)		
7	SHA1	AES (256 ビット)	
8	SHA2 (256 ビット)		
9	SHA2 (384 ビット)		
10	SHA1	3DES	
11	SHA2 (256 ビット)		
12	SHA2 (384 ビット)		

6 登録画面で「IPSec 通信設定」を押して、SA の有効時間や有効タイプ、および PFS（Perfect Forward Security）を指定します。



- <有効期間>の「時間」と「サイズ」：生成される IKE SA と IPSec SA の有効期間を指定します。有効期間内のセキュリティポリシーが適用された IPSec 通信では鍵交換のネゴシエーションを行わずにパケットを送受信できます。「時間」と「サイズ」のいずれかを必ず設定してください。両方を設定した場合は、「時間」と「サイズ」のどちらか一方が設定値に達したときに SA の有効期限が切れます。
- <PFS> を「ON」：PFS 機能を有効にすると、1 つの暗号鍵が第三者に知られてしまっても、他の暗号鍵には被害が波及しないため、機密性が向上します。
- <PFS> を「OFF」：PFS 機能を無効にした場合、1 つの暗号鍵が第三者に知られると、他の暗号鍵も予測される怖れがあります。<PFS> を「ON」に設定した場合は、通信先の PFS も有効にする必要があります。

7 IPSec 通信設定画面で、IKE フェーズ 2 に使用する認証と暗号化のアルゴリズムを選択します。

● 認証と暗号化のアルゴリズムを指定する：

- <認証/暗号化アルゴリズム>の「自動指定」を押します。
- 認証方式のアルゴリズムを設定します。



設定できる認証と暗号化のアルゴリズムは、以下のとおりです。

認証方式	説明
[ESP]	<ESP 認証> [SHA1]：ESP 認証方式のアルゴリズムに SHA1 を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。 [NULL]：ESP 認証方式のアルゴリズムを設定しません。 <ESP 暗号> [3DES-CBC]：ESP 暗号化方式のアルゴリズムに 3DES、暗号モードに CBC を設定します。3DES は、DES を 3 回行うため処理時間は長くなりますが、暗号の強度は高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。 [AES-CBC]：ESP 暗号化方式のアルゴリズムに AES、暗号モードに CBC を設定します。AES は、128、192、および 256 ビットの鍵長の暗号鍵をサポートします。サポートする鍵長が長いので、暗号の強度が高まります。CBC では、前のブロックの暗号化結果が次のブロックに連鎖され、暗号を解読しにくくすることができます。 [NULL]：ESP 暗号化方式のアルゴリズムを設定しません。

認証方式	説明
[ESP(AES-GCM)]	128 ビット、192 ビット、および 256 ビットの鍵長の AES-GCM (Advanced Encryption Standard - Galois Counter Mode) を設定します。AES-GCM は、暗号化と認証を同時に行うアルゴリズムです。
[AH(SHA1)]	AH 認証方式のアルゴリズムに SHA1 を設定します。160 ビットのハッシュ値をサポートします。

重要 IPsec 通信を FIPS 140-2 に準拠させた場合は、認証方式に [ESP(AES-GCM)] を設定しているポリシーは無効 (OFF) になります。同時に、このポリシーの認証アルゴリズムは SHA1 へ、暗号アルゴリズムは 3DES-CBC へ自動的に変更されます。(→ FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました (暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする) : P.34)

● 認証と暗号化のアルゴリズムを自動で設定する：

□ <認証/暗号化アルゴリズム>の [自動] を押します。

ESP 認証・暗号化方式が設定されます。認証と暗号化のアルゴリズムの優先順位は、以下のとおりです。

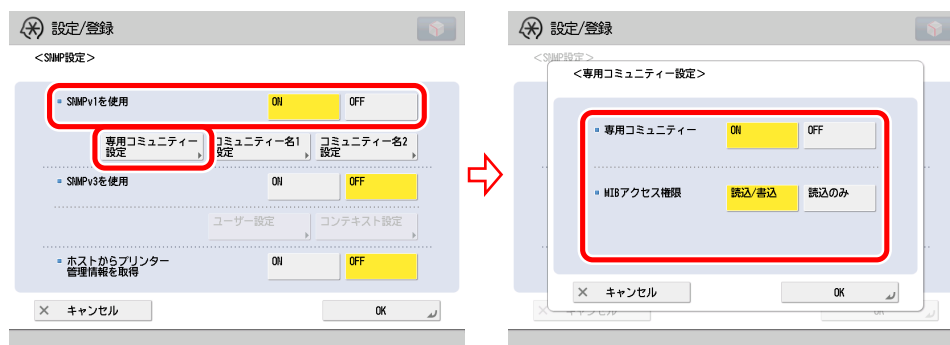
優先順位	ESP 認証方式のアルゴリズム	ESP 暗号化方式のアルゴリズム
1	SHA1	AES (128 ビット)
2	SHA1	AES (192 ビット)
3	SHA1	AES (256 ビット)
4	SHA1	3DES

**SNMPv1 で専用コミュニティを設定できるようになりました
SNMPv3 の暗号化アルゴリズムに AES を選択できるようになりました**

メモ SNMP 設定の詳細については、e-マニュアル>ネットワークを参照してください。

SNMPv1 で専用コミュニティを設定する

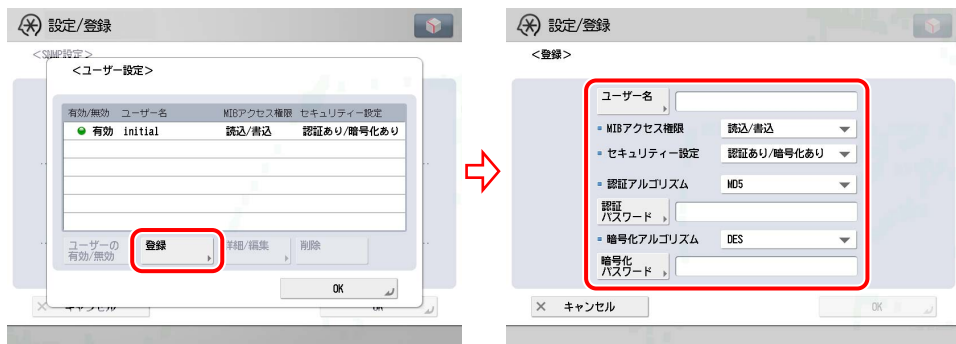
- 1 ネットワーク画面の [SNMP 設定] で、SNMPv1 を設定します。
- 2 [専用コミュニティ設定] → [ON] を押したあと、<MIB アクセス権限> を設定します。



SNMPv3 ユーザーを追加する

- 1 ネットワーク画面の [SNMP 設定] で、SNMPv3 を設定します。
- 2 <SNMPv3 を使用> を「ON」にして、[ユーザー設定] → [登録] を押したあと、ユーザー名、MIB アクセス権限、セキュリティを設定します。

- セキュリティ設定ドロップダウンリストから [認証あり/暗号化あり] を選択した場合：
認証アルゴリズムを以下から選択して、認証パスワードを入力します。
 - MD5
 - SHA1暗号化アルゴリズムを以下から選択して、暗号化パスワードを入力して [OK] を押します。
 - DES
 - AES
- セキュリティ設定ドロップダウンリストから [認証あり/暗号化なし] を選択した場合：
認証アルゴリズムを以下から選択して、認証パスワードを入力して [OK] を押します。
 - MD5
 - SHA1
- セキュリティ設定ドロップダウンリストから [認証なし/暗号化なし] を選択した場合：
[OK] を押します。



フルカラー時の色味を鮮やかにできるようになりました（フルカラー時の鮮やかさ設定）

コピーまたは保存ファイルの利用からプリントするときの色合いをより鮮やかにできます。ジョブごとに設定するのではなく、すべてのジョブのデフォルトを一括で設定できます。

-  **メモ**
- コピーまたは保存ファイルの利用の「カラー選択」で「フルカラー」を選択している場合、または「自動(カラー/白黒)」を選択してフルカラーと認識されている場合に有効になります。
 - コピーまたは保存ファイルの利用の「ワンタッチ調整」で「レトロ調モノクロ」を選択している場合、本機能は使用できません。

1 （設定／登録）→「調整／メンテナンス」→「画質調整」→「フルカラー時の鮮やかさ設定」を押します。

2 「標準」、[レベル 1] または [レベル 2] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

- [標準]： 原稿の色味を再現します。
[レベル 1]： [標準] よりも色味を鮮やかにします。
[レベル 2]： [レベル 1] よりも色味を鮮やかにします。

-  **メモ**
- 設定は、本製品の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。
 - 電源の入れかた／切りかたは、e-マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

PDF の下限バージョンを指定できるようになりました（PDF の下限バージョン指定）

PDF 生成時に付与するバージョンの下限を指定できます。

-  **重要**
- 本設定では、PDF 生成時に付与され得るバージョン範囲の下限を指定します。PDF に設定する機能によっては、本設定で指定したバージョンよりも上になる場合があります。

-  **メモ**
- ファクス、Iファクスの送信では、この設定は無効になります。

1 （設定／登録）→「ファンクション設定」→「共通」→「ファイル生成」→「PDF の下限バージョン指定」を押します。

2 「指定しない」、[1.5]、[1.6] または [1.7] を選択したあと、[OK] を押します。

Rights Management サーバーを設定できるようになりました（Rights Management サーバー設定）

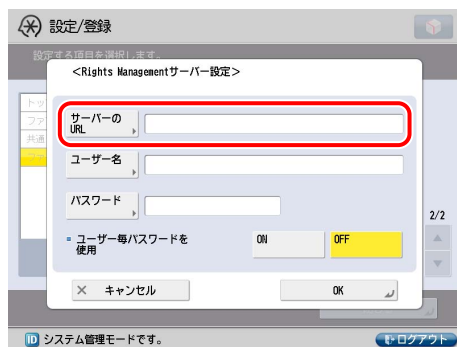
本機は、Adobe LiveCycle Rights Management との連携によって閲覧権限などが管理された PDF を生成できます。ここでは、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに接続するときの設定について説明しています。

Rights Management サーバーを利用した PDF を生成する手順については、「[スキャンして送信]、[スキャンして保存] で Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました」（→ P.36）を参照してください。

- 重要**
- 本機能を設定するには、Adobe LiveCycle Rights Management ESまたはAdobe LiveCycle Rights Management ES2が必要です。詳細については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。
 - 本機能を設定するには、Adobe LiveCycle Rights Managementサーバーと本製品がイントラネットやインターネットで接続されている必要があります。

1 （設定／登録）→ [ファンクション設定] → [共通] → [ファイル生成] → [Rights Management サーバー設定] を押します。

2 Adobe LiveCycle Rights Management サーバーの URL を入力します。



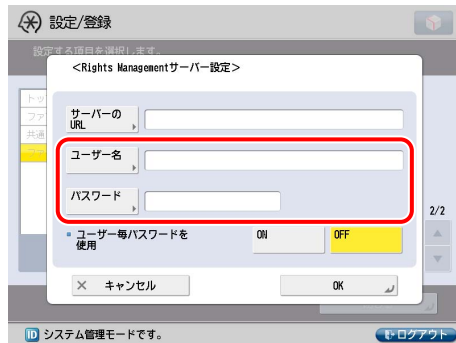
サーバーの URL は、「https://<IP アドレスまたはホスト名 >:< ポート番号 >」の形式で入力してください。

入力例：

- https://192.168.1.21:8443
- https://RMServer.host.canon.jp:8443

- 重要**
- IP アドレス、ホスト名、ポート番号については、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーの管理者にお問い合わせください。

3 必要に応じて、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを入力します。



手順4で「ユーザー毎パスワードを使用」を「ON」にする場合、ここにユーザー名とパスワードを入力する必要はありません。

「ユーザー毎パスワードを使用」を「OFF」にする場合でも、ユーザー名とパスワードをジョブごとに毎回入力する場合は、空欄にします。

4 「ユーザー毎パスワードを使用」の「ON」または「OFF」を選択します。

本機能を利用したPDFを生成するときは、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーへのログイン画面が表示されます。

手順3でユーザー名とパスワードを入力して、「ユーザー毎パスワードを使用」が「OFF」の場合、ログイン画面にはユーザー名とパスワードが自動入力された状態で表示されます。ユーザー名とパスワードが未入力のときは、ジョブごとに毎回入力する必要があります。

「ユーザー毎パスワードを使用」が「ON」の場合は、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを、ジョブごとに入力します。

5 [OK] を押します。

PCL のステータスプリント、フォントリストを出力できるようになりました (PCL)

重要 この機能は、PCL エミュレーション拡張キットを有効にしている場合に使用できます。

● PCLステータスプリント

共通メニューの内容に加えて、PCL 設定メニューの設定内容がプリントされます。

1. Ⓢ (設定／登録) を押したあと、[ファンクション設定] を押します。
2. [プリンター] を押します。
3. [レポート出力] を押します。
4. [PCL] を押します。
5. [ステータスプリント] を押して出力します。

● PCLフォントリスト

PCL モードで使えるフォントの一覧がプリントされます。

1. Ⓢ (設定／登録) を押したあと、[ファンクション設定] を押します。
2. [プリンター] を押します。
3. [レポート出力] を押します。
4. [PCL] を押します。
5. [フォントリスト] を押して出力します。

PCL プリントを設定できるようになりました（PCL 設定）

重要 この機能は、PCL エミュレーション拡張キットを有効にしている場合に使用できます。

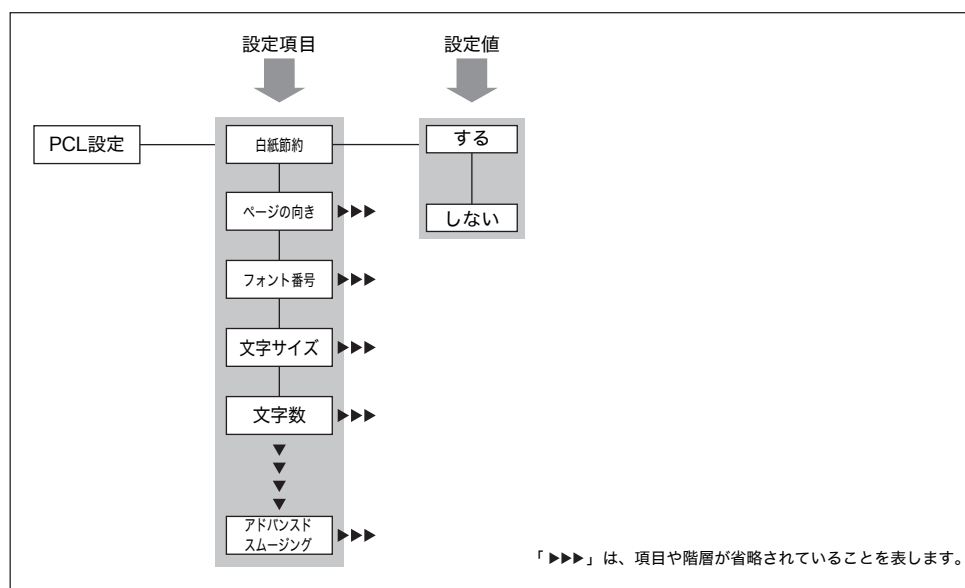
PCL 設定メニューについて

ここでは、PCL 設定メニューの機能と構造、操作手順について説明します。

■PCL設定メニューの機能

PCL 設定メニューでは、タイムアウトやフォント置換、文字やイメージの色処理などの設定をします。

■PCL設定メニューの構造

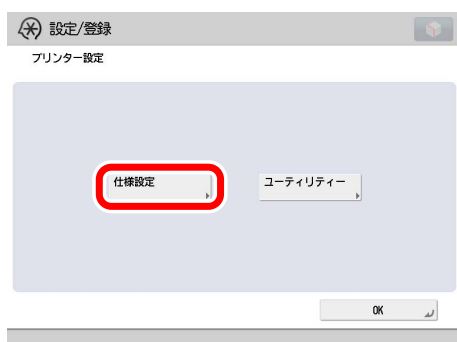


■PCL設定メニューの操作の流れ

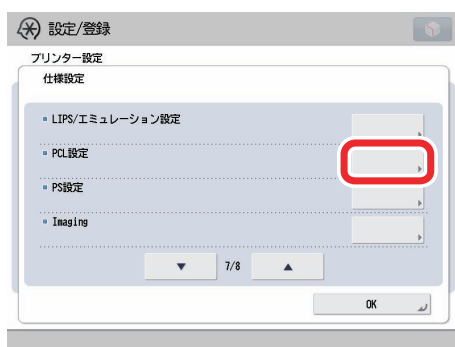
ここでは、白紙節約を「しない」に設定する手順を例に説明します。

1 (設定/登録) を押したあと、[ファンクション設定] → [プリンター] → [プリンター設定] を押します。

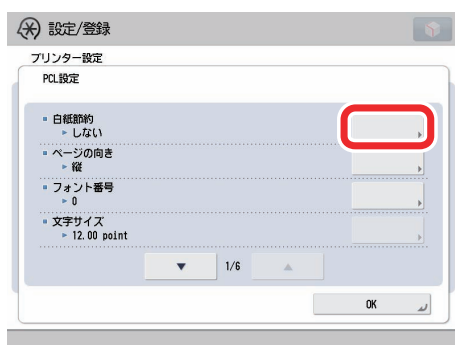
2 [仕様設定] を押します。



3 [PCL 設定] を押します。



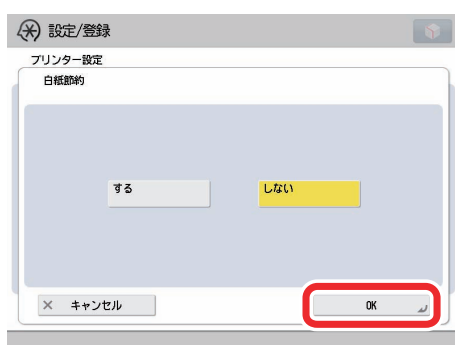
4 [白紙節約] を押します。



5 [しない] を押します。



6 [OK] を押します。



PCL 設定メニューの設定項目

- メモ
- PCL設定メニューは、PCLプリンターのみ表示されます。
 - 太字で示されている設定値は、工場出荷時の値です。

■白紙節約

する、しない

ソフトウェアから送られたページ終了コードとページ終了コードの間に印字するデータがない場合、白紙を排出させるかどうかを設定します。

〔する〕を設定すると、白紙は排出されません。紙の節約になります。

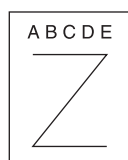
〔しない〕を設定すると、白紙が排出されます。

■ページの向き

縦、横

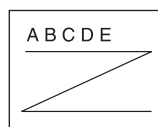
用紙を縦に使うか、横に使うかを設定します。

〔縦〕に設定すると、用紙カセット内での用紙の向きにかかわらず、用紙を縦に使うで印刷されます。



縦

〔横〕に設定すると、用紙カセット内での用紙の向きにかかわらず、用紙を横に使うで印刷されます。



横

■フォント番号

0 ～ 104

本製品のプリンター機能で使用するフォントのタイプフェイスを対応するフォント番号で指定できます。指定できる番号は0から104です。

■文字サイズ

4.00 ～ **12.00** ～ 999.75 point (0.25 point 単位)

「フォント番号」で選択された番号がプロポーションアルフォントに対応する場合、本設定がPCL設定メニューに表示されます。標準で使用するフォントの文字サイズを指定することができます。文字サイズは0.25 point単位で設定できます。

- メモ
- 本機能は「フォント番号」で1から78を選択した場合に設定できます。

■文字数

0.44 ～ **10.00** ～ 99.99 cpi (0.01 cpi 単位)

「フォント番号」で選択された番号が固定幅のスケラブルフォントに対応する場合、「文字数」が PCL 設定メニューに表示されます。標準で使用するフォントの文字数を指定できます。文字数は 0.01 cpi 単位で調節できます。cpi は、Characters Per Inch の略で、1 インチあたりの文字数を表します。

 **メモ** 本機能は「フォント番号」で 0 または、79 から 104 を選択した場合に設定できます。

■行数

5 ～ **64** ～ 128 行

1 ページに何行印刷するかを設定できます。5 から 128 行の間で設定します。

■文字コード

ARABIC8, DESKTOP, GREEK8, HEBREW7, HEBREW8, ISO4, ISO6, ISO11, ISO15, ISO17, ISO21, ISO60, ISO69, ISOCYR, ISOGRK, ISOHEB, ISOL1, ISOL2, ISOL5, ISOL6, LEGAL, MATH8, MCTEXT, MSPUBL, PC775, **PC8**, PC850, PC852, PC862, PC864, PC866, PC8DN, PC8GRK, PC8TK, PC1004, PIFONT, PSMATH, PSTEXT, ROMAN8, VNINTL, VNMATH, VNUS, WIN30, WINBALT, WINL1, WINL2, WINL5

ホストコンピューターに最も適した文字コードを選択できます。

■ユーザー定義用紙サイズの設定

する、**しない**

ユーザー定義用紙サイズを設定できます。[する] を選択すると、ユーザー定義用紙サイズを入力できます。プリンタードライバーから設定されたユーザー定義用紙サイズのみを選択できます。]

 **メモ** プリンタードライバーから設定されたユーザー定義用紙サイズのみを選択できます。

■単位

ミリメートル、インチ

ユーザー定義用紙サイズの指定に使う単位を設定できます。

■幅

139.7 ～ **457.2** ～ 1200mm

ユーザー定義用紙サイズの幅を設定できます。幅は0.1mm単位で139.7mmから1200mmの間で指定できます。端が切れて印刷されてしまう場合に、この機能は有効です。印字する幅を広げることで、切れてしまったテキストも正しく印刷できるようになります。ただし、印刷に使用する用紙の実際の幅以上に、印字する幅を指定することはできません。

■高さ

99.0 ～ **320.0mm**

ユーザー定義用紙サイズの高さを設定できます。高さは 0.1mm 単位で 99.0mm から 320mm の間で指定できます。

端が切れて印刷されてしまう場合に、この機能は有効です。印字する高さを広げることで、切れてしまったテキストも正しく印刷できるようになります。ただし、印刷に使用する用紙の実際の高さ以上に、印字する高さを指定することはできません。

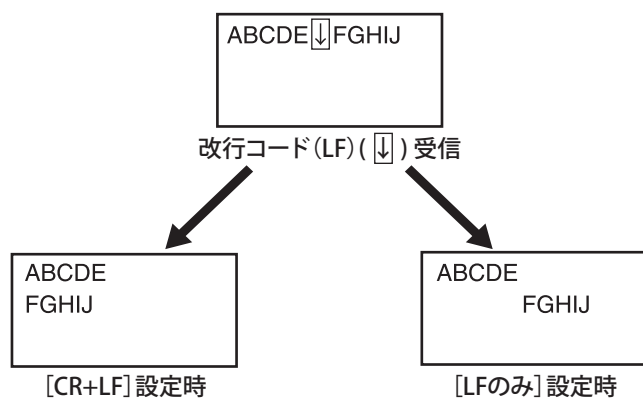
■LF機能

CR+LF、**LFのみ**

改行コード（LF）を受信したときに、復帰コード（CR）を付け足すかを指定できます。

〔CR+LF〕を設定した場合、改行コードを受信すると、印字ヘッドは次の行の先頭に移動します。

〔LFのみ〕を設定した場合、改行コードを受信すると、印字ヘッドは次の行へ垂直に移動して水平方向の位置は変わりません。（次の行の先頭には戻りません。）



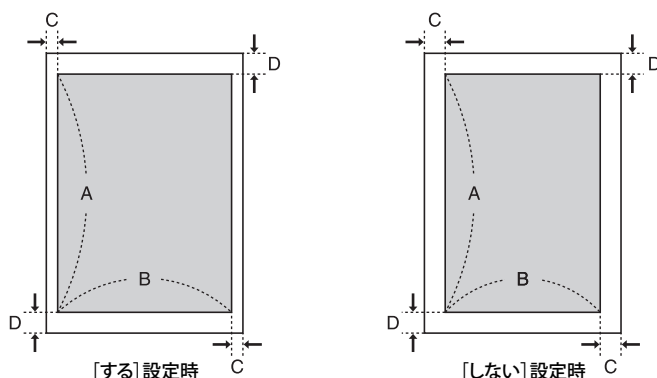
■A4印字領域横幅拡大

する、しない

A4 用紙の横幅の印字可能領域をレター用紙の横幅まで広げるかを設定できます。

[する] を設定した場合、A4 用紙で上下の端から 4.23mm、左右の端から 3.18mm の部分が印刷可能領域になります。横幅の印刷領域のみが広がります。

[しない] を設定した場合、A4 用紙で上下左右の端から 4.23mm の部分が印刷可能領域になります。



設定	する	しない
A: 長さ	287.87mm	
B: 幅	203.4mm	200.03mm
C: 左右の余白	3.18mm	4.23mm
D: 上下の余白	4.23mm	

- メモ
- この設定はA4用紙にのみ有効です。
 - この設定はページの向きが縦の場合にのみ有効です。

■中間調選択

テキスト： 解像度、階調、誤差拡散
グラフィックス： 解像度、階調、誤差拡散
イメージ： 解像度、階調、誤差拡散

モノクロデータでの中間調の表現方法を設定します。

印刷データは点で表されます。精細な階調や輪郭、陰影はディザパターンによって表現されます。ディザパターンは点の集まりのことです。この表現方法を中間調処理と呼びます。

たとえば、文字や線の輪郭をはっきりとさせるディザパターンを使ったり、画像やグラフの階調を滑らかにするディザパターンを使うことで、最も適した色調を得られます。

[解像度]を選択すると、文字をはっきりとした輪郭で印刷できます。文字や細い線を印刷するのに適しています。

[階調]を選択すると、滑らかな階調と輪郭を両立した印刷ができます。グラデーションを使用したグラフや画像を印刷するのに適しています。

[誤差拡散]を選択すると、[階調]を選択した場合よりも高精細な印刷ができますが、定着させたトナーの安定性は若干劣ります。細かい文字や細い線、(CAD データのような)輪郭線を印刷するのに適しています。

■RGB入力プロファイル

テキスト：	sRGB、Gamma 1.5、Gamma 1.8、Gamma 2.4、ダウンロードプロファイル
グラフィックス：	sRGB、Gamma 1.5、Gamma 1.8、Gamma 2.4、ダウンロードプロファイル
イメージ：	sRGB、Gamma 1.5、Gamma 1.8、Gamma 2.4、ダウンロードプロファイル

使用中のモニターの特性に適した、RGB プロファイル（RGB（赤青緑）カラーモデルを用いたカラーデータ）を選択できます。RGB カラーモデルで作成されたカラーイメージやカラーグラフィックスを含んだ文書を印刷する際に、本設定が適用されます。

「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定することができます。

- [sRGB]
一般的なWindowsコンピューターのモニターの業界標準画質に設定されます。sRGB 対応モニターをお使いの場合、モニター上の色に近い色味で印刷されます。
- [Gamma 1.5]、[Gamma 1.8]、[Gamma 2.4]
RGBデータのガンマ補正の度合いを選択できます。値が大きいほど、暗く印刷されます。
- [ダウンロードプロファイル]
プロファイルは最大100個保存できます。

-  **メモ** • imageWARE Enterprise Management Consoleからもプロファイルをダウンロードできます。
• CMS（マッチング）／ガンマで [CMS] が選択されている場合のみ、本設定は有効です。

■出力プロファイル

テキスト：	Normal、Photo
グラフィックス：	Normal、Photo
イメージ：	Normal、Photo

印刷しようとしているデータに適切なプロファイルを定義することができます。本項目はすべての印刷ジョブのデータに適用されますので、正しいプロファイルが選択されていることを確認してください。

「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定することができます。

ほとんどの場合、テキストデータとグラフィックスデータには [Normal] を、イメージデータには [Photo] を選択することをお勧めします。

- [Normal]
モニターに表示された色に近い色味で印刷されます。
- [Photo]
写真のような色味で印刷されます。

-  **メモ** CMS（マッチング）／ガンマで [CMS] が選択されている場合のみ、本設定は有効です。

■マッチング方法

テキスト：	色み優先、鮮やかさ優先、色差最小
グラフィックス：	色み優先、鮮やかさ優先、色差最小
イメージ：	色み優先、鮮やかさ優先、色差最小

「RGB 入力プロファイル」が適用される際の印刷方法を設定します。本製品では、以下のようなカラーレンダリングスタイルを選択することができます。

「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定することができます。

- [色み優先]
写真やビットマップイメージの印刷に適した色味を提供します。
- [鮮やかさ優先]
プレゼンテーション資料用のアートワークやグラフなどの印刷に適した色味を提供します。
- [色差最小]
CMS（マッチング）／ガンマで [CMS] が選択されている場合のみ、本設定は有効です。

- メモ**
- 「[解像度]」が「スーパーファイン（1200dpi）」に設定されている場合は、本機能は使用できません。
 - 「[出力プロファイル]」を「[Normal]」に設定し、「[マッチング方法]」を「[色み優先]」に設定すると、プリンタードライバーでマッチング方法を「モニタ色にあわせる」に設定したのと同様の設定になります。
 - 「[出力プロファイル]」を「[Photo]」に設定し、「[マッチング方法]」を「[色み優先]」に設定すると、プリンタードライバーでマッチング方法を「写真調」に設定したのと同様の設定になります。
 - 「[出力プロファイル]」を「[Photo]」に設定し、「[マッチング方法]」を「[鮮やかさ優先]」に設定すると、プリンタードライバーでマッチング方法を「VIVIDフォト」に設定したのと同様の設定になります。

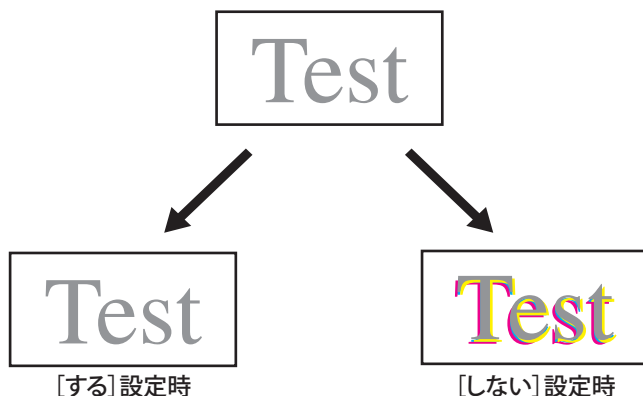
■グレー補償

テキスト：	する、しない
グラフィックス：	する、しない
イメージ：	する、しない

黒色（K）トナーのみを使うかの指定を、「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類のごとに設定できます。

「[する]」を選択した場合、黒色と灰色のデータは黒色（K）トナーのみを使って印刷され、トナー色の混合が軽減されます。

「[しない]」を選択した場合、黒色と灰色のデータも4色（CMYK）すべてを使って印刷されます。暗い部分のグラデーションの再現性は「[する]」の場合より向上します。



■CMS（マッチング）選択

プリンター、ホスト

プリンター側とホスト側（プリンタードライバー）のどちらで色処理を行うかを設定します。

「[プリンター]」に設定すると、プリンター側で色処理が行われます。

「[ホスト]」に設定すると、プリンター側では色処理が行われません。

■CMS（マッチング）／ガンマ

テキスト： **ガンマ**、CMS
グラフィックス： **ガンマ**、CMS
イメージ： **ガンマ**、CMS

カラーマッチングを行うか、ガンマ値を用いてカラー補正を行うかを、「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定できます。

本項目の設定を変更すると、以下の設定項目の有効／無効が切り替わります。

○：有効
×：無効

	[ガンマ]	[CMS]
「RGB 入力プロファイル」	×	○
「マッチング方法」	×	○
「出力プロファイル」	×	○
「ガンマ補正」	○	×

■ガンマ補正

テキスト： 1.0、**1.4**、1.8、2.2
グラフィックス： 1.0、**1.4**、1.8、2.2
イメージ： 1.0、**1.4**、1.8、2.2

原稿中の最も明るい部分や最も暗い部分を損なわないように、印刷結果の明るさを調節することができます。印刷した結果がオリジナル画像（スキャナで読み込む前の写真やモニター上で作成されたグラフィックスなど）に比べて明るいときや、明るさを変えて出力したいときなどに設定します。設定値が大きいほど暗く印刷されます。[1.4] が補正なしの状態です。

「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定することができます。

 **メモ** CMS（マッチング）／ガンマで [CMS] が選択されている場合のみ、本設定は有効です。

■アドバンスドスムージング

アドバンスドスムージング： しない、**スムーズ 1**、スムーズ 2
グラフィックスに適用： する、**しない**
テキストに適用： **する**、しない

グラフィックス（アプリケーションソフトで作成されたイラスト）や文字の輪郭を滑らかにプリントするか設定できます。

[スムーズ 1] よりも [スムーズ 2] の方がより滑らかになるようなスムージング処理を行います。まず、[スムーズ 1] に設定し、それでもデータが滑らかにならない場合は、[スムーズ 2] に設定してください。

「グラフィックスに適用」と「テキストに適用」の [する] ／ [しない] を切り替えることで、スムージング処理を行う対象を選択することもできます。

 **重要** ・本項目はグラフィックスデータとテキストデータに対するスムージング処理の設定を行います。イメージデータは設定できません。
・「解像度」の設定が [スーパーファイン（1200dpi）] に設定されている場合、本項目の「テキストに適用」の設定は無効になります。

 **メモ** ・「グラフィックスに適用」と「テキストに適用」は、「アドバンスドスムージング」が [スムーズ1] または [スムーズ2] に設定されている場合にのみ表示されます。
・プリンタードライバーで「アドバンスドスムージング」を [パネル優先] に設定している場合にのみ、タッチパネルの「グラフィックスに適用」と「テキストに適用」の設定が適用されます。
・アドバンスドスムージングの効果は、文字やグラフィックスのパターンによって異なります。

プリンタードライバーからのジョブ制限を詳細に指定できるようになりました

プリンタードライバーからのジョブを受け付けるかどうかの設定をします。

 **メモ** 本機能の設定をする場合は、管理者としてログインする必要があります。管理者の種類については、e-マニュアル > セキュリティを参照してください。

1  (設定／登録) → [ファンクション設定] → [プリンター] → [プリンタージョブの制限] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[ON] : プリンタードライバーからのジョブを制限します。

[OFF] : プリンタードライバーからのジョブを制限しません。

● [ON] を選択した場合 :

☐ [プリント保留] または [プリント保留＋セキュアプリント] を選択したあと、[OK] を押します。

< 許可するジョブの選択 >

[プリント保留] :

ボックスへの保存、合成のフォーム登録を許可します。

[プリント保留＋セキュアプリント] : ボックスへの保存、合成のフォーム登録、セキュアプリントを許可します。

● [OFF] を選択した場合 :

☐ [OK] を押します。

メールアドレスの入力を補完できるようになりました (メールアドレスの入力補完)

E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示します。

 **メモ** • あらかじめ本製品のアドレス帳に E メールアドレスを登録しておく必要があります。
• アクセス番号で制限されている E メールアドレスは表示されません。

1  (設定／登録) → [ファンクション設定] → [送信] → [E メール / ファクス設定] → [メールアドレスの入力補完] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[ON] : E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示します。

[OFF] : E メールアドレスを新規に入力するときに、本製品のアドレス帳に登録されている E メールアドレスから前方一致するアドレスを表示しません。

認証ユーザー名をファクス送信時に発信人の名称として使用できるようになりました（認証ユーザー名を発信人として使用）

SSO-H による認証でログインしている場合は、発信人の名称リストの「100」にログインユーザー名が表示されます。本設定を「ON」にすると、「100」のログインユーザー名が発信人名称の初期値になります。

 **重要** この機能は、FAX ボードを装着しているかりモート FAX 送信キットを有効にしている場合に使用できます。

 **メモ**

- SSO-Hによるログインサービスについてはe-マニュアル＞MEAP認証システム設定を参照してください。
- 本設定が「OFF」の場合は「00」のユーザー略称が発信人名称の初期値となります。ユーザー略称の登録については、e-マニュアル＞設定/登録を参照してください。

1 （設定／登録）→ [ファンクション設定] → [送信] → [ファクス設定] → [認証ユーザー名を発信人として使用] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

ボックスのセキュリティーを設定できるようになりました（ボックスのセキュリティー設定）

ボックスに保存されるファイルのセキュリティーを向上させる設定を行います。

ボックスの暗証番号を7桁固定にする

ボックスにファイルを保存するときの暗証番号は1桁から設定できます。本機能を「ON」に設定すると、暗証番号を7桁に固定できます。

 **重要** 本機能を「ON」に設定する前に7桁未満の暗証番号を登録していた場合、その暗証番号をそのまま使用することは可能です。ただし、セキュリティーを維持するために、7桁で登録しなおしてください。

 **メモ**

- 本機能を「ON」に設定したときは、システムボックス、ファクスボックスの暗証番号も7桁固定となります。
- ボックスの暗証番号を設定する方法については、e-マニュアル＞設定/登録を参照してください。
- システムボックス、ファクスボックスの暗証番号を設定する方法については、e-マニュアル＞設定/登録を参照してください。

1 （設定／登録）→ [ファンクション設定] → [ファイル保存 / 利用] → [ボックス設定] を押します。

2 [ボックスのセキュリティー設定] → [ボックス暗証番号7桁固定 / アクセス制限] を押します。

3 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

 **メモ** 設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e-マニュアル＞お使いになる前にを参照してください。

プリンタードライバーから保存時のプリント設定の変更を制限する

[ファンクション設定] (設定／登録) の < プリンタードライバーから保存時のプリント > は、プリンタードライバーを使ってファイルをコンピューターからボックスに保存するときに、そのファイルをプリントするかどうか設定する機能です。

本機能を「OFF」に設定すると、< プリンタードライバーから保存時のプリント > の設定を変更できなくなります。

 **メモ** < プリンタードライバーから保存時のプリント > の詳細については、e-マニュアル > 設定 / 登録をご参照ください。

- 1  (設定／登録) → [ファンクション設定] → [ファイル保存 / 利用] → [ボックス設定] を押します。
- 2 [ボックスのセキュリティ設定] → [プリンタードライバーから保存時のプリントの表示] を押します。
- 3 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

 **メモ** 設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e-マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

メモリーメディアへのファイル保存／プリントを制限できるようになりました (メモリーメディア設定)

メモリーメディアへのファイルの保存や、メモリーメディアにあるファイルのプリントを制限します。

[プリント機能を使用] を「OFF」に設定している場合の画面例 (保存ファイルの利用)



- 1  (設定／登録) → [ファンクション設定] → [ファイル保存 / 利用] → [メモリーメディア設定] → [スキャン / プリント機能を使用] を押します。
- 2 [スキャン機能を使用] または [プリント機能を使用] を選択したあと、[ON] または [OFF] を選択します。

ホールド機能を使用できるようになりました (ホールド機能を使用)

ホールド機能を使用するかどうかを設定します。

 **重要** この機能は、imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO でお使いいただけます。

- 1  (設定／登録) → [ファンクション設定] → [ホールド] → [ホールド機能を使用] を押します。
- 2 [ON] または [OFF] を選択します。

ホールドジョブの自動削除までの時間を設定できるようになりました（ホールドジョブの自動削除までの時間）

ホールドジョブを自動的に削除するまでの時間を設定できます。

 **重要** この機能は、imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO でお使いいただけます。

-  **メモ**
- 本製品の日付や時刻を変更すると、ホールドジョブを自動削除するまでの経過時間に影響します。
 - ホールドジョブが投入されたあと、またはジョブチケット編集／ジョブ操作が行われたあと、一定時間でホールドジョブが削除されます。

- 1 （設定／登録）→ [ファンクション設定] → [ホールド] → [ホールドジョブの自動削除までの時間] を押します。
- 2 [▼] [▲] を押してホールドジョブを自動削除するまでの時間を設定して、[OK] を押します。

宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました

リモート UI で宛先表をエクスポートするときに、宛先に登録されているパスワードを含めるかどうか設定できます。

-  **メモ**
- エクスポート対象とするかどうか設定できるのは、以下のパスワードです。
 - ファクス宛先の、Fコード送信のためのパスワード
 - ファイルサーバー宛先（外部公開時のアドバンスドボックスを含む）の認証パスワード
 - 宛先表のエクスポートについては、「宛先表をファイルに保存する（エクスポート）」（→ P.59）を参照してください。

- 1 （設定／登録）→ [宛先設定] → [アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める] を押します。
- 2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

選択する項目

[ON]： エクスポートするファイルにパスワードを含めます。

[OFF]： エクスポートするファイルにパスワードを含めません。

 **重要** 本設定が「OFF」のときは、インポート先で宛先にパスワードを登録しなおす必要があります。

SSL 暗号化通信に必要な鍵ペアを生成する際に、署名アルゴリズムと鍵のアルゴリズムを選択できるようになりました

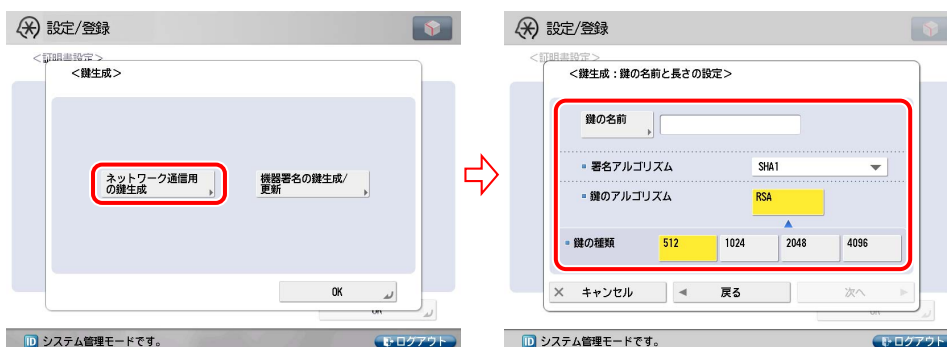
鍵ペアの生成方法は以下のとおりです。

1 (設定／登録) → [管理設定] → [デバイス管理] を押します。

2 [証明書設定] → [鍵生成] を押します。

3 [ネットワーク通信用の鍵生成] を押す→次の項目を設定します。

[ネットワーク通信用の鍵生成]と[機器署名の鍵生成 / 更新]が表示されるのは、機器署名を有効にしているときです。



選択する項目

[鍵の名前]: 鍵ペアの名前を入力します。

< 署名アルゴリズム >: 署名に利用するハッシュ関数を選択します。(SHA1、SHA256、SHA384、SHA512) SHA384 と SHA512 のハッシュ関数をサポートしているのは、1024 ビット以上の長さの鍵です。[SHA384] または [SHA512] を設定する場合は、< 鍵の種類 > で [1024]、[2048]、または [4096] を選択してください。

< 鍵のアルゴリズム >: RSA (Rivest Shamir Adleman)

< 鍵の種類 >: 鍵の長さを選択します。(512、1024、2048、4096)

重要 鍵ペアの名前は、半角 24 文字以内で設定してください。全角文字は入力しないでください。

メモ 鍵ペアの名前に、「Device Signature Key」（機器署名用鍵ペアの名前）、および「AMS」（アクセス制限用鍵ペアの名前）を設定することはできません。

監査ログの取得を設定できるようになりました（監査ログを取得）

本機能を「ON」に設定すると、以下のログを生成できます。生成したログは、リモート UI を使用して管理（エクスポート／クリア）できます。

- ボックス文書操作ログ
- ボックス認証ログ
- ネットワーク接続ログ
- 本体管理ログ

メモ 監査ログの管理機能の詳細については、P.54 を参照してください。

1 (設定／登録) → [管理設定] → [デバイス管理] → [監査ログを取得] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

メモ 設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e-マニュアル > お使いになる前にを参照してください。

FIPS 140-2 に準拠した暗号方式を使用できるようになりました（暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする）

本機能を「ON」に設定すると、以下で使用されている暗号化方式を米国政府の FIPS 140-2 に準拠させることができます。

- [環境設定]（設定／登録）の [IPSec設定]（→e-マニュアル＞ネットワーク）

[暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする]を「ON」に設定した場合、IPSec 通信の認証／暗号化アルゴリズムに「AES-GCM」を使用しているポリシーが無効（OFF）になります。同時に、このポリシーの認証アルゴリズムは SHA1 へ、暗号アルゴリズムは 3DES-CBC へ自動的に変更されます。

また、署名アルゴリズムに「RSA-MD5」、「RSA-MD2」を使用する証明書が設定されているポリシーも無効（OFF）になります。

-  **メモ**
- 本機能は、IPSecセキュリティボードを有効にしているときにのみ使用できます。（→e-マニュアル＞オプションについて）
 - 使用している証明書の署名アルゴリズムを確認する方法については、e-マニュアル＞セキュリティを参照してください。

1 （設定／登録）→ [管理設定] → [デバイス管理] → [暗号方式を FIPS 140-2 準拠にする] を押します。

2 [ON] または [OFF] を選択したあと、[OK] を押します。

-  **メモ**
- 設定変更は、本体の主電源スイッチを入れなおしたあとに有効になります。主電源スイッチを入れなおす方法は、e-マニュアル＞お使いになる前にを参照してください。

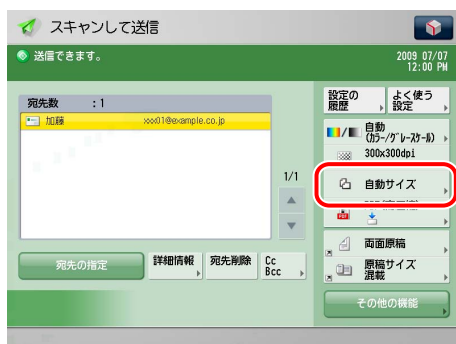
スキャン機能に関する変更（[ファクス]、[スキャンして送信]、[スキャンして保存]）

[ファクス]、[スキャンして送信]、[スキャンして保存] でフリーサイズを選択してスキャンできるようになりました

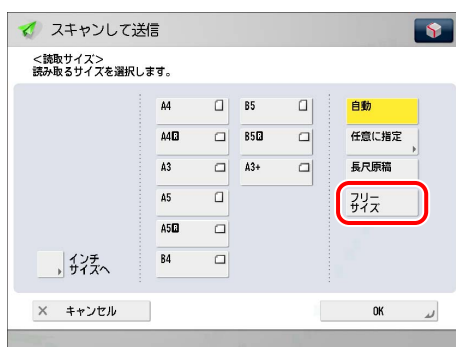
[フリーサイズ] を使うと、不定形サイズ of 原稿を両面読取でスキャンできます。ここでは [スキャンして送信] の画面を例に説明します。

- 重要**
- [フリーサイズ] は、原稿がA3より小さい場合に使ってください。
 - A3よりも長い原稿を読み込む場合は [長尺原稿] を使ってください。ただし両面読取はできません。
 - [フリーサイズ] を選択する場合は、原稿をフィーダーにセットしてください。原稿台ガラスにセットしても読み込むことはできません。
 - [スキャンして保存] では、アドバンスドボックス/ネットワーク/メモリーメディアへ保存するときに、[フリーサイズ] を選択できます。

1 原稿をセットして宛先を指定したあと、読取サイズボタンを押します。



2 [フリーサイズ] を押します。



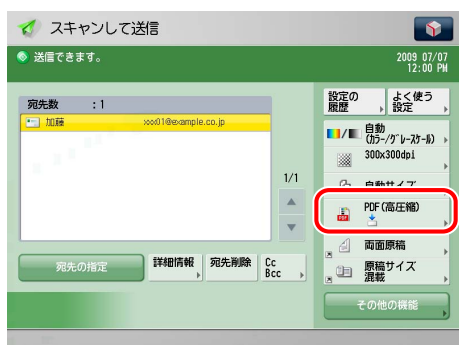
3 [OK] を押します。

[スキャンして送信]、[スキャンして保存] で Rights Management サーバーのポリシー適用 PDF を生成できるようになりました

Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに設定されているセキュリティーポリシーによって閲覧権限などが管理された PDF を生成できます。ここでは [スキャンして送信] の画面を例に説明します。

- メモ
- [ポリシーを適用する] を使用するには、Adobe LiveCycle Rights Management ESまたはAdobe LiveCycle Rights Management ES2が必要です。詳しくはお求めになった販売店にお問い合わせください。
 - [ポリシーを適用する] を使用するには、以下の条件が必要です。
 - Adobe LiveCycle Rights Managementサーバーと本製品がイントラネットやインターネットで接続されている
 - [Rights Managementサーバー設定] でAdobe LiveCycle Rights ManagementサーバーのURLが設定されている (→Rights Managementサーバーを設定できるようになりました (Rights Managementサーバー設定) : P.18)
 - [ポリシーを適用する] は、以下の機能と同時に設定できません。
 - 暗号化する
 - タイムスタンプ
 - PDFをPDF/A準拠にする

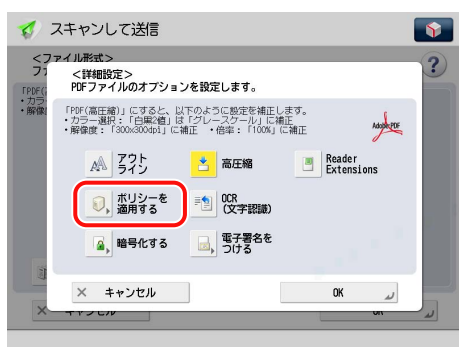
1 原稿をセットして宛先を指定したあと、ファイル形式ボタンを押します。



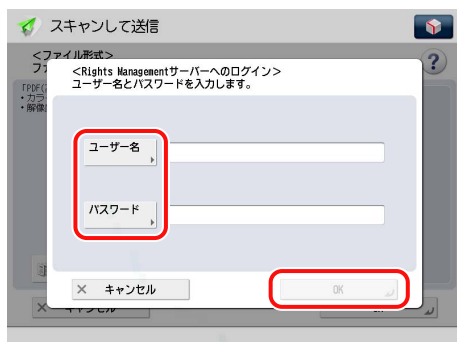
2 [PDF] を選択したあと、[詳細設定] を押します。

[詳細設定] が表示されていない場合は、<ファイル形式>の画面で [ポリシーを適用する] を押します。

3 [ポリシーを適用する] を押します。



4 Adobe LiveCycle Rights Management サーバーにログインするためのユーザー名とパスワードを入力したあと、[OK] を押します。



重要

ログイン画面は、[Rights Management サーバー設定] の設定内容によって異なります。

- [Rights Managementサーバー設定] でユーザー名とパスワードを入力して、ユーザー毎パスワードを使用を「OFF」に設定している場合、ログイン画面は [Rights Managementサーバー設定] で設定したユーザー名とパスワードが自動入力された状態で表示されます。
- [Rights Managementサーバー設定] でユーザー毎パスワードを使用を「ON」に設定している場合、ログイン画面でユーザーごとにユーザー名とパスワードの入力が必要です。なお、SSO-Hなどのログインサービスを使用している場合は、[パスワードを保存] を「ON」に設定するとユーザー名とパスワードが保存され、保存したユーザーが次回ログインすると自動入力された状態で表示されます。

5 適用するポリシーをリストから選択したあと、[OK] を押します。

ポリシーリストには、Adobe LiveCycle Rights Management サーバーに登録されているポリシーが表示されます。

重要

- 表示可能なポリシー数は64件までです。
- 本機では、AES128bitで暗号化されたポリシーのみ適用できます。

プリント機能に関する変更（[コピー]、[保存ファイルの利用]、[セキュアプリント]、状況確認 / 中止）

[コピー]、[保存ファイルの利用] で中綴じフィニッシャー・B1 装着時にサドル折りを設定してプリントできるようになりました

サドル折りは、用紙を2つ折りして出力する機能です。中綴じフィニッシャー・A1（LP）装着時だけでなく、中綴じフィニッシャー・B1 装着時にもサドル折りを設定できるようになりました。



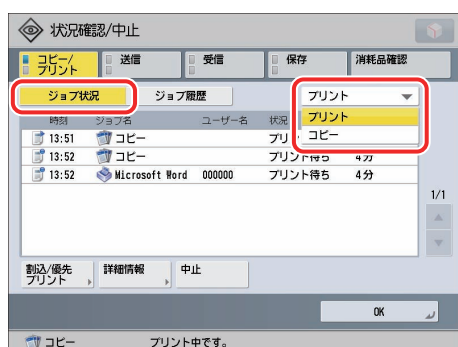
- 重要**
- 用紙は1枚ごとにサドル折りされて排紙されます。
 - 厚紙4、エンボス紙4、片面コート紙4、両面コート紙4、第2原図、OHPフィルム、パンチ済み紙、インデックス紙、ラベル用紙、はがき、封筒はサドル折りできません。
 - サドル折りを設定する場合は、同時に両面コピーを設定する必要があります。

メモ サドル折りできる用紙サイズは、305 × 457 mm、A3、B4、A4R です。

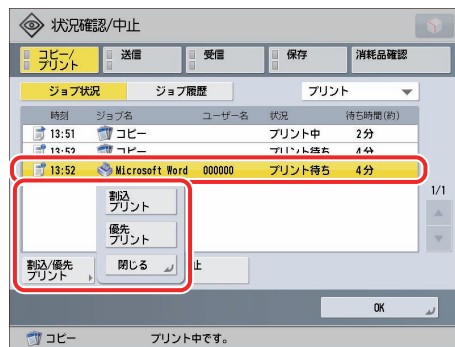
[セキュアプリント] と状況確認 / 中止画面で、割込 / 優先プリントできるようになりました（割込 / 優先プリント）

実行中のジョブを中断して、選択したジョブを優先的にプリントできます。ここでは、状況確認 / 中止画面での操作を説明します。

- 1 （状況確認 / 中止） → [コピー / プリント] を押します。
- 2 [ジョブ状況] を押したあと、ドロップダウンリストで表示させたいジョブの種類を選択します。



3 ジョブを選択して、[割込 / 優先プリント] を押します。



実行中のジョブを中断して、選択したジョブを優先的にプリントする場合は、[割込プリント] を押してください。

選択したジョブを実行中のジョブの次に優先的にプリントする場合は、[優先プリント] を押してください。

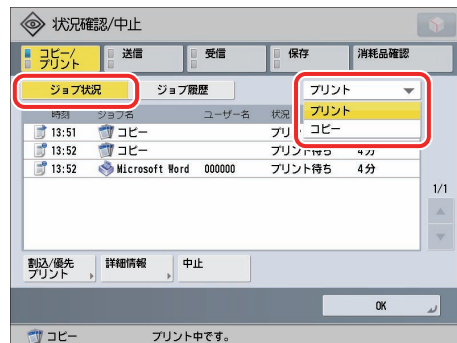
重要

- 割り込みプリント中のジョブを、別のジョブが追い越して割り込むことはできません。追い越して割り込もうとした場合、そのジョブは割り込み中のジョブが終了したあとに実行されます。
- 割込プリント待機中のジョブを選択して、割込プリントや優先プリントを行うことはできません。
- 別のジョブにより割り込まれたジョブ、用紙なしジョブ、トナーなしジョブなど、一度実行中になってから中断したジョブは、ジョブが再開した場合、そのジョブに対して割り込みを行うことはできません。割込プリントを実行した場合でも、その操作は無視されます。
- ファクス受信プリントに対して別のファクス受信プリントの割り込みを行うことはできません。
- 複数枚のコピー／プリントジョブに対して割込プリントを行った場合、残りのプリント枚数を中断して割り込みます。ただし、以下の仕上げ機能を使用している場合は、プリントが部数単位で終了してから割り込みます。
 - ホチキス
 - 製本
 - サドル折り

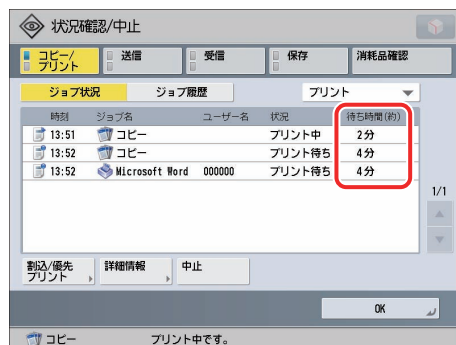
ジョブ状況画面にプリント待ち時間が表示されるようになりました

コピー／プリントジョブのジョブ状況画面に、プリントが終了するまでの予測時間が表示されます。画面を表示する手順は以下のとおりです。

- 1  (状況確認／中止) → [コピー / プリント] を押します。
- 2 [ジョブ状況] を押したあと、ドロップダウンリストで表示させたいジョブの種類を選択します。

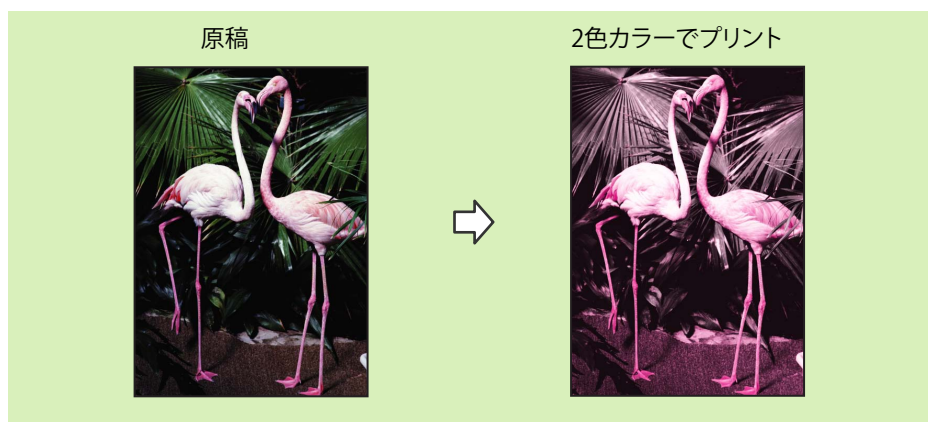


プリントが終了するまでの予測時間が表示されます。



プリンタードライバーから2色カラーでプリントできるようになりました

プリンタードライバーの「色数の設定」ダイアログボックスで「2色カラー」を選択すると、黒と指定した1色でプリントします。ここではWindowsでの操作を説明します。

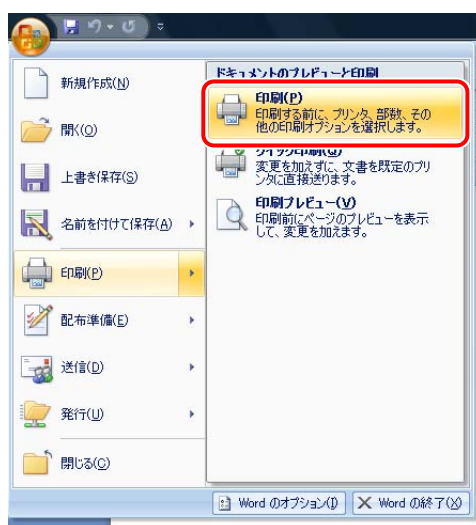


重要 この機能をお使いになるには、以下のプリンタードライバーが必要です。

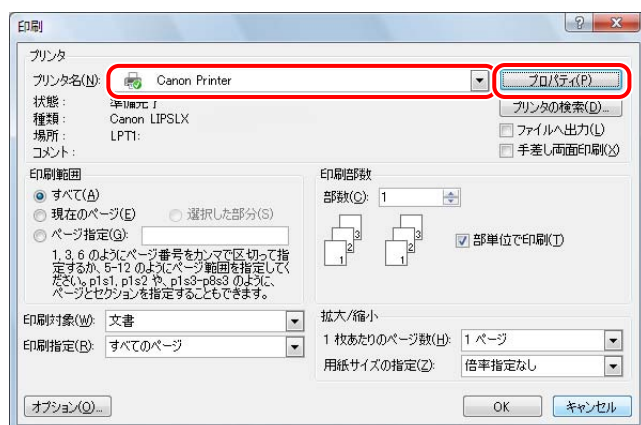
- Windows : LIPS LXプリンタードライバー Version 20.40以降
- Macintosh : LIPS LX プリンタードライバー Version 2.20以降

メモ Macintosh での操作については、プリンタードライバーに付属のヘルプを参照してください。

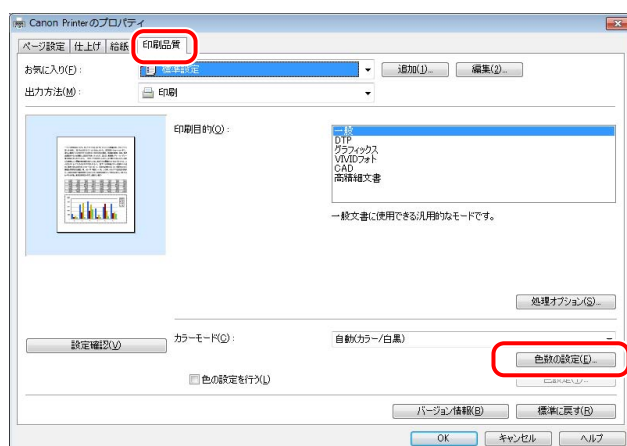
1 アプリケーションソフトウェアのメニューから「印刷」を選択します。



2 お使いのプリンターを選択したあと、[詳細設定]（または [プロパティ]）をクリックします。



3 [印刷品質] タブをクリックし、[色数の設定] をクリックします。



メモ 「色数の設定」が表示されないときは、[コントロールパネル] からプリンターのプロパティ画面を表示したあと、[デバイスの設定] タブをクリックし、[デバイス機能] をクリックしたあと [デバイス機能の設定] ダイアログボックスで [機能バージョン] を [2.0 以上] に設定します。

4 [2 色カラー] を選択し、[黒と組み合わせる色] から色を選択します。



5 [OK] をクリックします。

[ウェブブラウザ] で Web ページのプリントが非対応になりました

[ウェブブラウザ] でタッチパネルディスプレイに表示中のウェブページをプリントできなくなりました。

- **メモ** • タッチパネルディスプレイにウェブページを表示するには、ウェブブラウザ拡張キットが有効になっている必要があります。
- PDFファイルを表示してプリントすることは可能です。

PCL プリンタードライバーに対応してプリントできるようになりました

PCL プリンタードライバーは、一般的なビジネス用アプリケーションとともに使用できます。PCL5c プリンタードライバー（カラープリンター用）、および PCL6 プリンタードライバー（カラー／モノクロプリンター用）があります。PCL6 ドライバーは、PCL5c ドライバーより、印刷品質および印刷速度の点で優れています。PCL プリンタードライバーは、Windows 英語版にのみ対応しています。ドライバー画面は英語で表記されています。また、Macintosh には対応していません。



- **重要** この機能は、PCL エミュレーション拡張キットを有効にしている場合に使用できます。

- **メモ** PCL プリンタードライバーをインストールする場合、メニュー画面およびインストール画面は英語で表記されています。インストール手順は、「Printer Driver Installation Guide」（英語版）を参照してください。

アドバンスドボックスに関する変更

アドバンスドボックス管理者がコンピューターからアクセスしたときの操作権限が拡がりました

アドバンスドボックスが SMB または WebDAV サーバーとして外部公開されている場合、アドバンスドボックスの管理者はコンピューターのエクスプローラから以下の操作が可能です。

- 一般ユーザーが作成した [個人スペース] へアクセスして、フォルダー／ファイルの編集
- ファンクション設定（設定／登録）→ [ファイル保存/利用] → [アドバンスドボックス設定] → [外部からの書込禁止] を「ON」に設定している場合のフォルダー／ファイルの編集

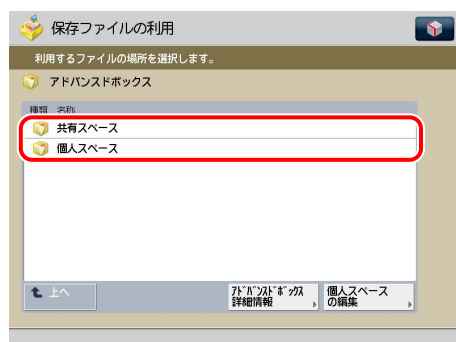
 **メモ** アドバンスドボックスを使用するユーザーの登録や外部公開設定については、e-マニュアル>セキュリティを参照してください。

アドバンスドボックス内のファイルが画像表示できるようになりました

ボックスに保存されているファイルだけでなく、アドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディアに保存されているファイルの画像をタッチパネルディスプレイに表示できるようになりました。ここでは、アドバンスドボックスを例に説明します。

 **重要** PDF ファイルの画像表示は、PS 拡張キットまたはダイレクトプリント拡張キット（PDF/XPS 用）が必要です。

- 1 メインメニュー画面で [保存ファイルの利用] を押したあと、格納場所の選択画面で [アドバンスドボックス] を押します。
- 2 スペース選択画面で目的のスペースを選択します。



- 3 目的のファイルがある階層を表示します。
- 4 画像を表示するファイルを選択したあと、[画像表示] を押します。



 **メモ** 複数のファイルを選択して[画像表示]を押した場合は、選択されている(色つき)ファイルのみ画像が表示されます。

5 [◀ ▶] を押して確認したいページを選択します。



6 画像を表示するファイルを選択したあと、[画像表示] を押します。

[] [] を押して画像の倍率を変更することができます。

拡大した画像は、[◀ ▶] [▼ ▲] を押して、表示箇所を移動することができます。

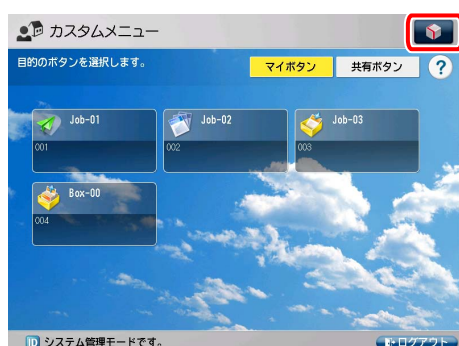
 で表示されている画像の位置を確認することができます。

カスタムメニュー機能に関する変更

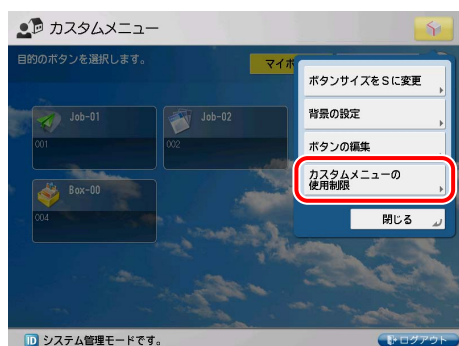
[カスタムメニュー]でマイボタンの使用を制限できるようになりました(マイボタンの使用)

-  **メモ**
- カスタムメニューの使用制限の設定は、システム管理者、またはSSO-Hのシステムアドミニストレーター (Administrator) / ネットワークアドミニストレーター (NetworkAdmin) / デバイスアドミニストレーター (DeviceAdmin) が行えます。管理者の種類については、e-マニュアル>セキュリティ を参照してください。
 - 認証機能を使用していない場合は、マイボタンは表示されません。

1 カスタムメニューで、 を押します。

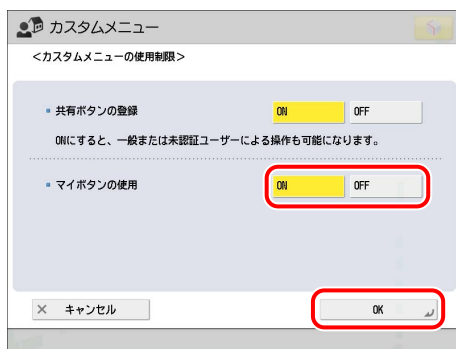


2 [カスタムメニューの使用制限] を押します。



-  **メモ**
- システム管理者情報のみ設定して、認証機能を使用していない場合は、[カスタムメニューの使用制限] を押したあとに、ログイン画面が表示されます。システム管理部門 ID とシステム管理暗証番号を入力してください。工場出荷時の初期値は、それぞれ「7654321」に設定されています。(→ e-マニュアル>セキュリティ)

3 [マイボタンの使用] を押したあと、[OK] を押します。



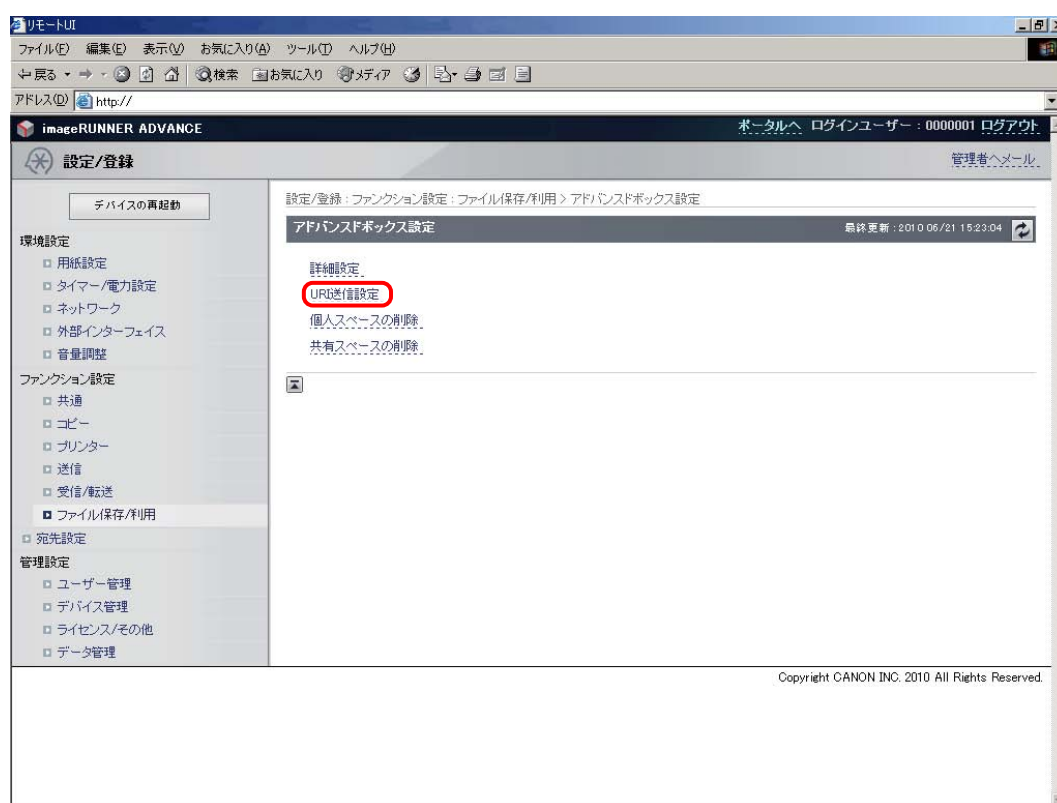
[マイボタンの使用]:マイボタンの使用を設定します。「ON」に設定した場合は、マイボタンを使用できます。「OFF」に設定した場合は、マイボタンを使用できません。

リモート UI 機能に関する変更

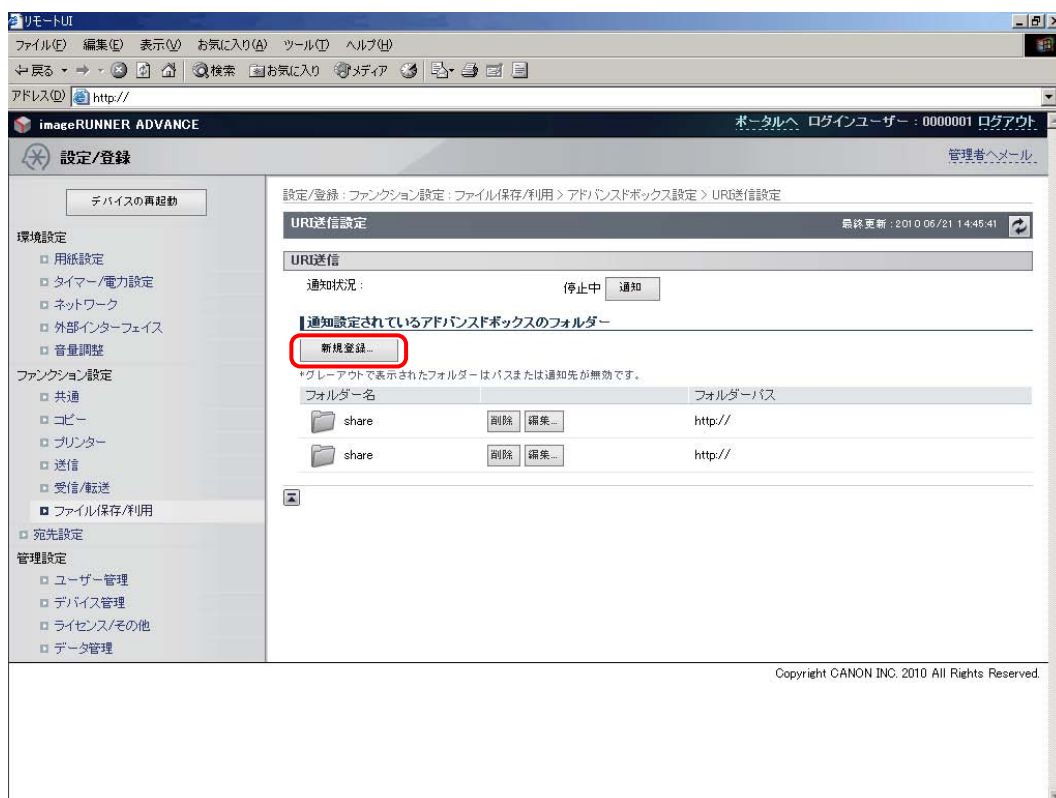
URI 送信を設定できるようになりました（URI 送信設定）

URI 送信設定では、本機のアドバンスドボックス内にファイルが保存されたときに、Eメールを送信して通知する設定ができます。Eメールにはファイル名を含めたフォルダーへのパス（URI:Uniform Resource Identifier）が記載されます。

- 1 [設定 / 登録] をクリックして、ファンクション設定に表示されるメニューから [ファイルの保存 / 利用] を選択したあと、[アドバンスドボックス設定] をクリックします。
- 2 [URI 送信設定] をクリックします。



3 [新規登録] をクリックします。



4 通知対象となるフォルダーへのパスを入力します。

● アドバンスドボックスをSMBサーバーとして公開している場合：

- 本機のホスト名またはIPアドレスに「¥share」または「¥users」をつけ、その次に「¥フォルダー名」を入力します。

入力例：

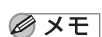
- ¥192.168.1.21¥share¥documents （共有スペースの直下にある「documents」というフォルダーを指定する場合）
- ¥192.168.1.21¥users¥suzuki （個人スペースの直下にある「suzuki」というフォルダーを指定する場合）

● アドバンスドボックスをWebDAVサーバーとして公開している場合：

- 「http(s)://<本機のIPアドレスまたはホスト名>/<shareまたはusers>/<フォルダ名>」の形式で入力します。

入力例：

- http://192.168.1.21/share/documents （SSL無効時で、共有スペースの直下にある「documents」というフォルダーを指定する場合）
- https://192.168.1.21/users/suzuki （SSL有効時で、個人スペースの直下にある「suzuki」というフォルダーを指定する場合）



メモ

本機に imagePASS が装着されている場合は、ポート番号（SSL 無効時：18080、SSL 有効時：18443）を指定する必要があります。

入力例：

- http://192.168.1.21:18080/share/documents （SSL無効時で、共有スペースの直下にある「documents」というフォルダーを指定する場合）

5 指定 E メールアドレスへ通知するタイミングを選択します。

選択する項目

[スキャンして保存で保存先として指定したとき]：

タッチパネルディスプレイの [スキャンして保存] から、アドバンスドボックス内の指定フォルダーへファイルが保存されるごとに通知します。なお、サブフォルダー内にファイルが保存されたときやフォルダーが追加されたときは通知しません。

[送信 / 転送機能でループバックアドレスを指定したとき]：

送信 / 転送機能を使用して、ループバックアドレス（ネットワーク上で自機を表すアドレス）から、アドバンスドボックス内の指定フォルダーへファイルが保存されるごとに通知します。なお、サブフォルダー内にファイルが保存されたときやフォルダーが追加されたときは通知しません。ループバックアドレスでの指定は、[スキャンして送信] や [転送設定] で本機のアドバンスドボックスを宛先にするときに使用します。（→本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する：P.53）

[フォルダー内の文書とサブフォルダーの合計が 700 個に達したとき]：

手順 4 で通知対象に指定したフォルダー内の、ファイルとサブフォルダーの合計が 700 個に達したときに通知します。サブフォルダー内のファイルとフォルダーは、カウントされません。

[フォルダー内の文書とサブフォルダーの合計が 900 個に達したとき]：

手順 4 で通知対象に指定したフォルダー内の、ファイルとサブフォルダーの合計が 900 個に達したときに通知します。サブフォルダー内のファイルとフォルダーは、カウントされません。

 **メモ** 指定したフォルダー内に保存できるファイルとサブフォルダーの合計は、最大 1000 個です。

6 [宛先の選択] をクリックして通知先の E メールアドレスを指定したあと、[OK] をクリックします。

 **メモ** 通知先に選択できるのは、アドレス帳に登録されている E メールアドレス 1 件、もしくは E メールアドレスグループ 1 件です。

7 Eメールの件名を入力します。

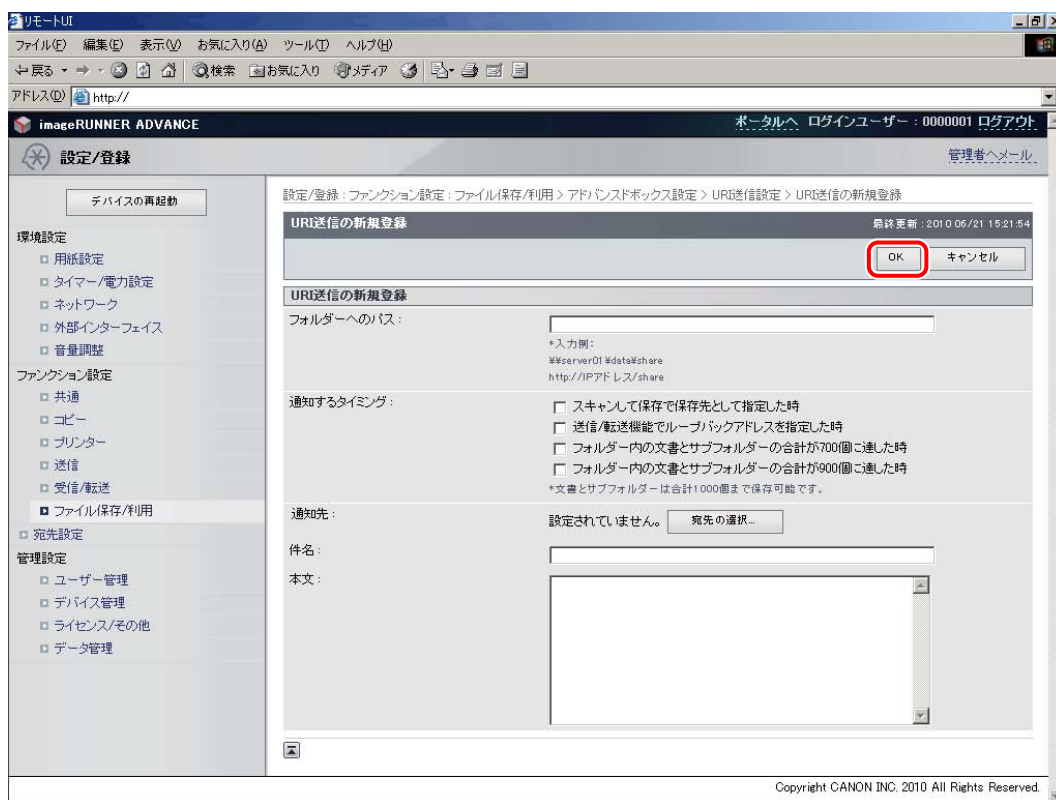
半角 40 文字まで入力できます。

8 Eメールの本文を入力します。

半角 140 文字まで入力できます。

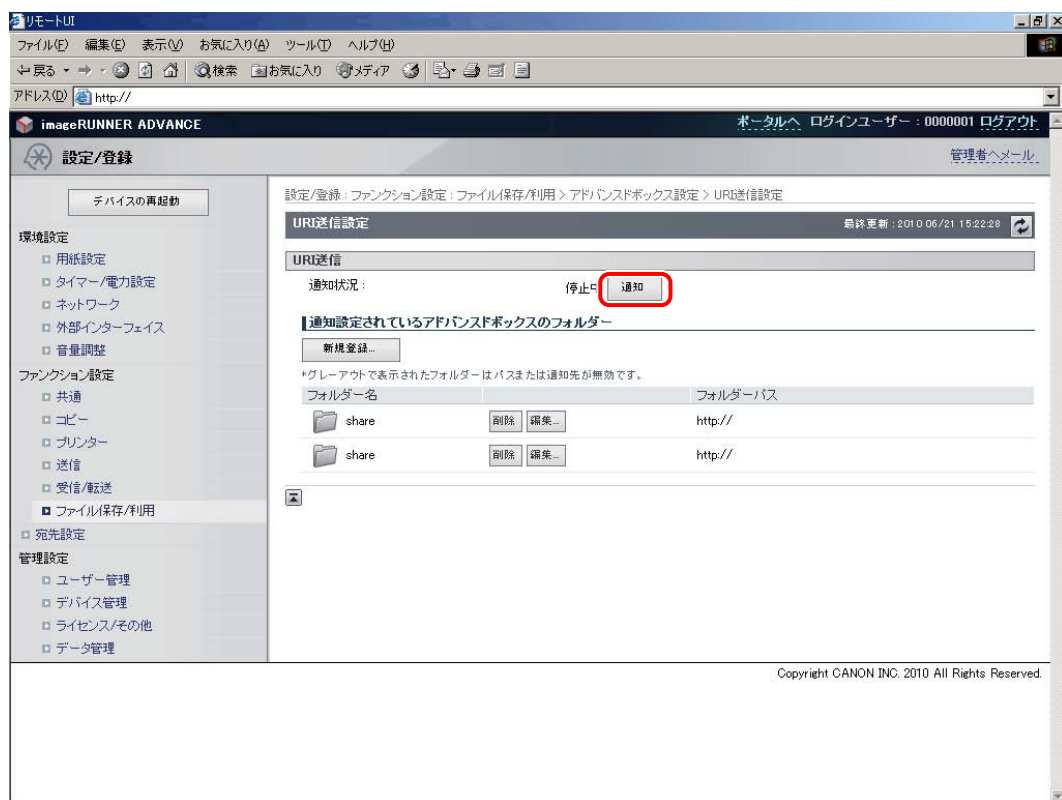
 **メモ** Eメールの本文には、ここを入力した文字列のほかに、手順 4 で指定したフォルダーへのパスとファイル名が記載されます。

9 [OK] をクリックします。



URI 送信設定の登録が終了しました。

10 [通知] をクリックします。



通知状況が「通知中」に変わり、登録されているすべてのURI送信設定が有効になります。

URI送信の通知を停止したい場合は、「停止」をクリックします。

● 登録済みのURI送信設定を削除する場合：

- 削除したいフォルダーの「削除」をクリックします。

● 登録済みのURI送信設定を編集する場合：

- 編集したいフォルダーの「編集」をクリックします。

Copyright CANON INC. 2010 All Rights Reserved.

本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスで宛先に指定する

本機のアドバンスドボックスをループバックアドレスでアドレス帳に登録する際は、[ホスト名] を以下のように入力します。

-  **メモ**
- アドバンスドボックスをアドレス帳に登録する方法の詳細については、e-マニュアル> スキャンして送信を参照してください。
 - ループバックアドレスで指定すると、[ファンクション設定]（設定／登録）の[外部からの書き込み禁止]を「ON」に設定している場合でもアドバンスドボックスに保存できます。（→e-マニュアル> セキュリティ）

■送信プロトコルに [Windows(SMB)] を選択した場合

1 以下のように入力します。

入力例：

共有スペースに保存する場合： \\127.0.0.1\share

個人スペースに保存する場合： \\127.0.0.1\users

 **重要** ループバックアドレスは以下のとおりです。

- IPアドレス（IPv4形式）の場合：
127.0.0.1
- IPアドレス（IPv6形式）の場合：
[::1]
- ホスト名の場合：
localhost

■送信プロトコルに [WebDAV] を選択した場合

1 以下のように入力します。

入力例：

http:// 127.0.0.1

 **重要** • [ホスト名] は、以下の形式で入力してください。

- SSL無効時：
http://IPアドレスまたはホスト名
- SSL有効時：
https://IPアドレスまたはホスト名
- ループバックアドレスは以下のとおりです。
 - IPアドレス（IPv4形式）の場合：
127.0.0.1
 - IPアドレス（IPv6形式）の場合：
[::1]
 - ホスト名の場合：
localhost
- 送信先のimageRUNNER ADVANCE機にimagePASSが装着されている場合は、[ホスト名] を以下のように入力してください。
 - imagePASSを装着した他機のアドバンスドボックスへ送信する場合：
SSL無効時：http://IPアドレスまたはホスト名:18080
SSL有効時：https://IPアドレスまたはホスト名:18443
 - imagePASSを装着した本機のアドバンスドボックスへ本機から送信する場合（ループバックアドレスで指定）：
 - IPv4形式の場合
SSL無効時：http://127.0.0.1:18080
SSL有効時：https://127.0.0.1:18443
 - IPv6形式の場合
SSL無効時：http://[::1]:18080
SSL有効時：https://[::1]:18443
 - ホスト名の場合
SSL無効時：http://localhost:18080
SSL有効時：https://localhost:18443

-  **メモ** imagePASS を装着した本機のアドバンスドボックスへ本機から送信する場合、[プロキシサーバーの使用] を「ON」に設定しているときは、ループバックアドレスでの指定では送信できない場合があります。その場合は、imagePASS の IP アドレスを入力してください。

監査ログを管理できるようになりました（監査ログのエクスポート / クリア）

-  **重要** 監査ログ管理機能を使用または使用できなかったことによって発生した損害については、弊社はその責任を追いかねますので、あらかじめご了承ください。

監査ログ管理機能と管理できるログの種類について

本機能を使用すると、本体内に保存されるログをリモート UI で収集／管理できるようになります。管理者は、収集されたログを確認することで、本体がどのように使用されているかを調査できます。

■ ログの種類について

本機能で管理できるのは、次のようなログになります。

- **ユーザー認証ログ**
 - ・ユーザー認証の認証状況と、ユーザー情報の登録／変更／削除に関するログです。
 - ・ログイン／ログアウトのログ
 - ・ユーザー認証の成功／失敗のログ
 - ・SSO-Hで管理されているユーザー情報の登録／変更などのログ
 - ・Access Management Systemのロール管理（追加／設定／削除）のログ
- **ジョブログ**
 - ・コピー／ファクス／スキャン／送信／プリントジョブの完了に関するログです。
- **ボックス文書操作ログ**
 - ・ボックス／システムボックス／ファクスボックス内のデータの操作に関するログです。
- **ボックス認証ログ**
 - ・ボックス／システムボックス／ファクスボックスの認証状況に関するログです。
- **ネットワーク接続ログ**
 - ・IPSec通信に失敗したときのログです。
- **本体管理ログ**
 - ・本体の^⑨（設定／登録）の内、ネットワークやセキュリティに関する設定を変更したときのログです。また、本体の日付／時刻設定の変更も本体管理ログに含まれます。
- **監査ログ管理機能のログ**
 - ・本機能を使用して行える、ログのエクスポートや削除に関するログです。

-  **重要**
- 本機能で管理可能なログの件数は、ログの種類にかかわらず2万件までです。ログがいっぱいになった場合は、古いログが順に消去されて、新しいログに上書きされます。
 - スリープ時の消費電力が「多い」に設定されている場合、本体がスリープ状態になっているときはログの収集が行われません。

-  **メモ** 本項目で紹介したログは、ユーザー操作の過程において本体システムでの処理により複数個、収集される場合があります。

ログを管理する

重要 ログを管理する場合は、管理者としてリモート UI にログインしている必要があります。

- メモ**
- 収集したログとエクスポートしたログには、日時、ユーザー名、操作種別、結果（OK/NG）の項目が含まれます。ジョブログには、他にジョブの種類についての項目が含まれます。
 - ネットワーク接続ログ、ボックス認証ログ、ボックス文書操作ログ、本体管理ログを生成する場合は、「監査ログを取得」を「ON」に設定したあと、本体を再起動します。（→e-マニュアル>セキュリティ）

■ログの収集を開始／停止する

ログの収集を開始／停止できます。収集したログは、ひとつの監査ログファイルに保存されます。

- メモ**
- 保存されたログは、収集された日付順に表示されない場合があります。
 - 工場出荷時は、ログの収集は停止の設定になっています。
 - ログの収集の開始または停止を設定すると、次に切り替えるまでは同じ状態が維持されます。本体の再起動では、設定は切り替わりません。
 - ログの収集の開始を設定すると、設定後に生成されたログが収集されます。設定前に生成されたログは収集されません。

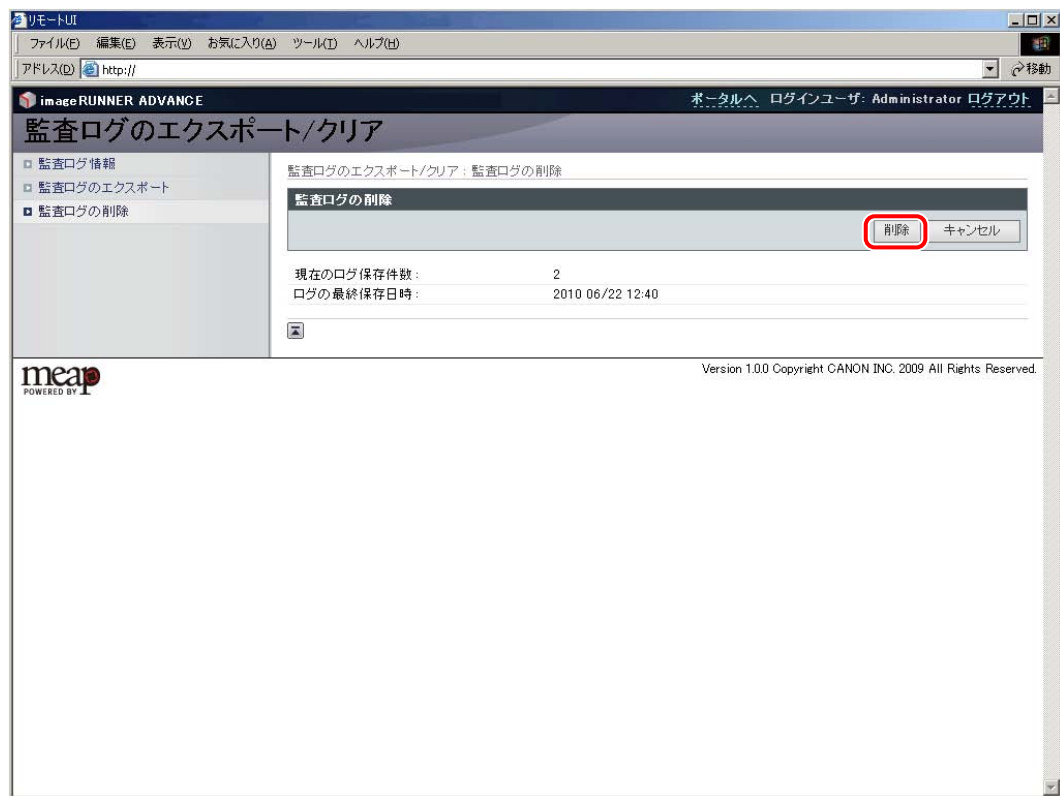
- 1** [設定 / 登録] → [デバイス管理] → [監査ログのエクスポート / クリア] → [監査ログ情報] → < 監査ログの収集 > の [開始] をクリックします。



■ログの保存件数と収集／保存日時を確認する

本体から収集したログの保存件数と、収集／保存した日時を確認できます。

- 1 [設定 / 登録] → [デバイス管理] → [監査ログのエクスポート / クリア] → [監査ログ情報] をクリックします。



表示される項目

- [現在のログ保存件数] : 現在保存されているログの件数が表示されます。
- [ログの最終収集日時] : 最後に本体からログを収集した日時が表示されます。
- [ログの最終保存日時] : 最後に本体から収集したログを保存した日時が表示されます。

■収集したログをエクスポートする

本体から収集した各種ログを、一括して CSV 形式でコンピューターに保存できます。

メモ 本体から収集した各種ログをエクスポートする際には、SSL または IPsec をご使用下さい。SSL を使用する場合は、[SSL を使用] を「ON」に設定したあと、本体を再起動します (→ e- マニュアル > リモート UI)。IPsec を使用する場合は、「e- マニュアル > ネットワーク」を参照してください。

エクスポートされるログに記載されているログの種類の番号は、以下のログの種類と対応します。

4098	ユーザー認証ログ
1001/8193	ジョブログ
8197	ボックス文書操作ログ
8199	ボックス認証ログ
8200	ネットワーク接続ログ
8198	本体管理ログ
3001	監査ログ管理機能のログ

1 [設定 / 登録] → [デバイス管理] → [監査ログのエクスポート / クリア] をクリックします。

2 < 監査ログのエクスポート > の [エクスポート] をクリックします。



エクスポートを行ったあと自動的にログを削除する場合は、[エクスポート後にログを本体から削除する] にチェックマークを付けます。

メモ [エクスポート後にログを本体から削除する] にチェックマークを付けた場合は、[エクスポート] をクリックしたあと、必ず [保存] をクリックしてください。[キャンセル] をクリックすると、ログが保存されないまま削除されます。

3 画面の指示に従って、ファイルの保存場所を指定します。

- メモ
- エクスポート実行中は、ログの収集が停止されます。
 - 本体の表示言語の設定がログを収集したときとエクスポートしたときとで異なる場合、ファイルの内容が文字化けすることがあります。

■収集したログを削除する

本体から収集したログを、一括して削除できます。

1 [設定 / 登録] → [デバイス管理] → [監査ログのエクスポート / クリア] をクリックします。

2 < 監査ログの削除 > の [削除] をクリックします。



3 [OK] をクリックします。

■エラーが表示されたときには

本機能で管理されるメモリー領域に何らかのエラーが発生した状態で、ログのエクスポートや削除を実行すると、リモート UI 上に「エラーが発生したため、監査ログの管理領域が壊れた可能性があります。システムの初期化を行います。」というメッセージが表示されます。

1 [OK] をクリックします。

メモリー領域の初期化が実行され、正常な状態に回復されます。

- メモ
- 初期化するとログの収集が停止し、それまでに収集したログはすべて削除されます。再度ログの収集を開始するには、「e-マニュアル」>「リモートUI」を参照してください。
 - エラーが発生した場合、タッチパネルディスプレイ上に「エラーのため監査ログを取得できません。」というメッ

アドレス帳のエクスポート／インポートにパスワードを含めることができるようになりました

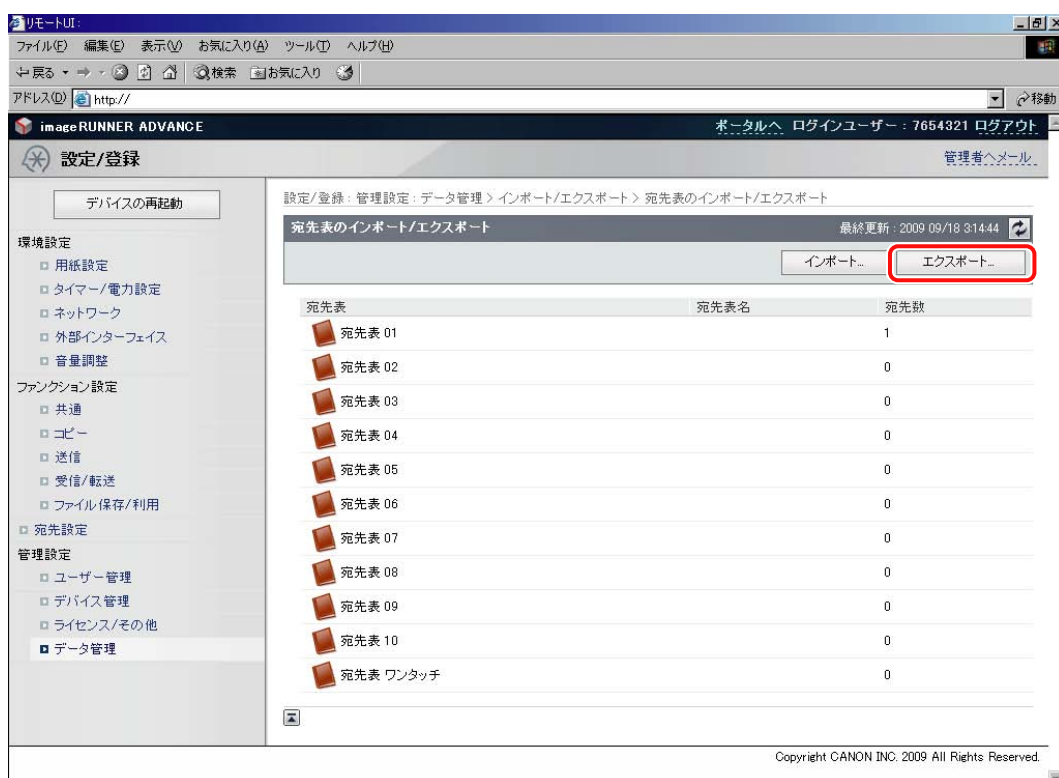
〔宛先表〕と〔デバイス設定（転送設定、アドレス帳、送信のよく使う設定）〕のアドレス帳のパスワード情報を暗号化してエクスポートできます。また、暗号化されたパスワード情報を複合化してインポートできます。ここでは、宛先表のエクスポート／インポート方法について説明します。デバイス設定のアドレス帳もパスワード情報の暗号化／複合化については、同様の手順となります。

メモ 宛先表／アドレス帳のエクスポート／インポート時にパスワード情報を含めるときは、あらかじめ〔宛先設定〕（設定／登録）の〔アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める〕をONにする必要があります。（→宛先表エクスポート時にパスワードを含めるかどうか設定できるようになりました：P.32）

宛先表をファイルに保存する（エクスポート）

宛先表の情報をファイルとしてコンピューターに保存できます。

- 1 〔設定／登録〕をクリックして、管理設定に表示されるメニューから〔データ管理〕を選択したあと、〔インポート／エクスポート〕→〔宛先表〕→〔エクスポート〕をクリックします。



宛先表に暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力する画面が表示されます。宛先表の暗証番号を入力したあと、〔OK〕をクリックします。

2 宛先表とファイルの保存形式を選択したあと、[エクスポート開始] をクリックします。

表示される項目

- [宛先表]： ドロップダウンリストから、ファイルに保存する宛先表を選択します。
- [フォーマット]： ファイルの保存形式を選択します。
- [専用フォーマット] の場合は、保存したファイルを同じ機種にインポートできます。
 - [LDAP フォーマット] の場合は、保存したファイルを他のアプリケーションソフト（Microsoft Internet Explorer、Netscape Navigator、Microsoft Outlook、Eudora など）で利用できます。他のアプリケーションでは、LDAP データとしてインポートしてください。
- [パスワード]： 宛先表の認証情報を暗号化するためのパスワードを入力します。
- [確認入力]： パスワードを再度入力します。異なるパスワードを入力した場合は、エラーのダイアログボックスが表示されます。

-  **メモ**
- [パスワード] と [確認入力] は、以下の設定を行ったときに表示されます。
[設定/登録] → [宛先設定] → [アドレス帳のエクスポート設定] → [アドレス帳エクスポートの対象にパスワードを含める] にチェックマークを付けたとき
 - [LDAPフォーマット] で保存できるのは、Eメールアドレスとファクス番号のみです。宛先表に登録されているすべての情報を保存する場合は、[専用フォーマット] を選択してください。
 - 宛先表の名称はエクスポートされません。
 - ファクスドライバーの宛先表にインポートする場合は、[専用フォーマット] を選択してください。[LDAPフォーマット] ではインポートできません。

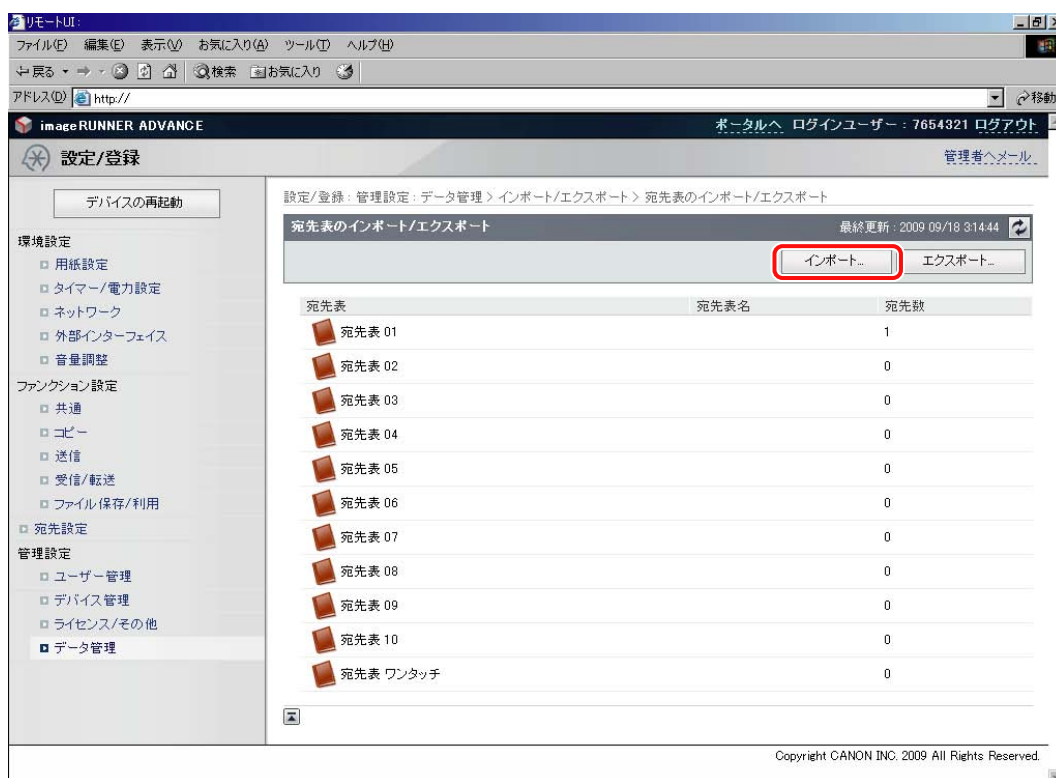
3 画面の指示に従って、ファイルの保存場所を指定します。

宛先表をファイルから読み込む（インポート）

コンピューターに保存したファイルから、宛先表の情報を本製品に読み込むことができます。

-  **重要**
- 宛先表（削除後に上書き）、転送設定、設定/登録のインポートを行うと、よく使う設定ボタンに登録されている内容は削除されます。
 - 本製品が原稿を読み込んでいるときは、インポートを行うことはできません。
-  **メモ**
- 宛先表には最大1800件の宛先を登録できます（200件はワンタッチボタン用の宛先です）。宛先はそれぞれの情報が1件として扱われます。宛先を追加インポートするときは、すでに登録されている宛先との合計が1800件を超えないようにしてください。
 - LDAPフォーマットのファイルをインポートするときは、Eメールアドレスまたはファクス番号が登録されている宛先が、本製品に登録されます。登録する宛先が1800件を超えないようにしてください。
 - 宛先表のワンタッチボタンの情報は、LDAPフォーマットではインポートできません。

- 1 「設定 / 登録」をクリックして、管理設定に表示されるメニューから「データ管理」を選択したあと、「インポート / エクスポート」→「宛先表」→「インポート」をクリックします。



宛先表に暗証番号が設定されている場合は、暗証番号を入力する画面が表示されます。アドレス帳の暗証番号を入力したあと、「OK」をクリックします。

- 2 インポートするファイルを選択したあと、必要な設定をして、「インポート開始」をクリックします。

表示される項目

- [宛先表] : ドロップダウンリストから、更新する宛先表を選択します。
- [インポート方法] : 宛先表の更新方法を選択します。
- ・[追加] の場合は、読み込まれたファイルの宛先が追加されます。現在登録されている宛先は変更されません。
 - ・[削除後に上書き] の場合は、現在登録されている宛先が削除され、読み込んだファイルの内容に更新されます。
- [ファイルへのパス] : 読み込むファイルの場所を指定します。
- [フォーマット] : ファイルの保存形式を選択します。
- ・[専用フォーマット] の場合は、同じ機種からコンピューターに保存したファイルをインポートします。
 - ・[LDAP フォーマット] の場合は、他のアプリケーションソフトからインポートします。

暗号化された宛先をインポートする場合は、「宛先表の認証情報を復元化する」にチェックマークを付けたあと、パスワードの項目を入力してください。



重要

- ・宛先表1～10をインポートする場合、「インポート方法」の「追加」を選択すると、すでに同じ名称の宛先が本製品に登録されていても、同一名称で新たに登録されます。
- ・宛先表のワンタッチボタンをインポートする場合は、「インポート方法」の「追加」が「上書き」に切り替わります。
- ・「インポート方法」で「削除後に上書き」を選択すると、本製品に登録されている宛先をすべて削除してから、読み込んだファイルの内容が登録されます。

-  **メモ**
- 「LDAPフォーマット」を選択できるのは、Eメールアドレスとファクス番号のみです。宛先表のワンタッチボタンの内容は、LDAPフォーマットではインポートできません。宛先表に登録されているすべての情報を保存する場合は、「専用フォーマット」を選択してください。
 - 宛先表の名称はインポートされません。

鍵ペアとサーバー証明書、CA 証明書のアルゴリズムが変更されました

鍵ペアとサーバー証明書

本製品で使用可能な鍵ペアと証明書のアルゴリズムは以下のとおりです。

署名アルゴリズム	鍵の長さ
sha1RSA/sha256RSA/sha384RSA* /sha512RSA*/MD2RSA**/MD5RSA**	512 ビット /1024 ビット /2048 ビット /4096 ビット

* 鍵の長さが 1024 ビット以上の場合のみ使用できます。

** リモート UI からのインストール時のみ使用できます。

本製品で使用可能な鍵ペアと証明書のフォーマットは以下のとおりです。

証明書フォーマット	ファイルフォーマット	ファイル拡張子
X.509v1/X.509v3*	PKCS#12	.pfx/.p12

* リモート UI からのインストール時のみ使用できます。

CA 証明書

本製品で使用可能な証明書のアルゴリズムは以下のとおりです。

署名アルゴリズム	鍵の長さ
sha1RSA/sha256RSA/sha384RSA* /sha512RSA*/MD2RSA/MD5RSA	512 ビット /1024 ビット /2048 ビット /4096 ビット
sha1DSA	1024 ビット /2048 ビット /3072 ビット

* 鍵の長さが 1024 ビット以上の場合のみ使用できます。

本製品で使用可能な証明書のフォーマットは以下のとおりです。

証明書フォーマット	ファイルフォーマット	ファイル拡張子
X.509v1/X.509v3	PKCS#12	.pfx/.p12

MEAP 機能に関する変更

SMS は常時、SSL 暗号化通信で使用するようになりました

SMS を SSL 暗号化通信で使用するには、事前に鍵ペアとサーバー証明書を使用鍵として設定しておく必要があります。本製品にはプリインストール済みの鍵ペアとサーバー証明書が登録されています。ここでは、この鍵ペアとサーバー証明書を使用鍵に設定する方法について説明します。

 **メモ** 使用鍵を設定せずに SMS にアクセスすると、「HTTP 500 内部サーバーエラー」が表示されます。このエラーが出たときは必ず本手順に従って、SSL の使用鍵を設定してください。

- 1  (設定／登録) → [環境設定] → [ネットワーク] → [TCP/IP 設定] → [SSL 設定] を押します。
- 2 [鍵と証明書] を押します。
- 3 「Default Key」（プリインストール済みの鍵ペアとサーバー証明書）を選択したあと、[使用鍵に設定] を押します。
- 4 [はい] → [OK] を押します。

-  **メモ**
- 本製品の操作パネルで SSL 暗号化通信に必要な鍵ペアと自己署名型サーバー証明書を作成する方法については、「e-マニュアル > セキュリティ」を参照してください。
 - SMS は [管理設定]（設定／登録）の [MEAP 設定] - [SSL 設定] の ON/OFF に関わらず、使用鍵を設定することで、常時、SSL 暗号化通信で行います。

SMS 使用時に MEAP アプリケーションの設定情報を管理できるようになりました (MEAP アプリケーションの設定情報管理)

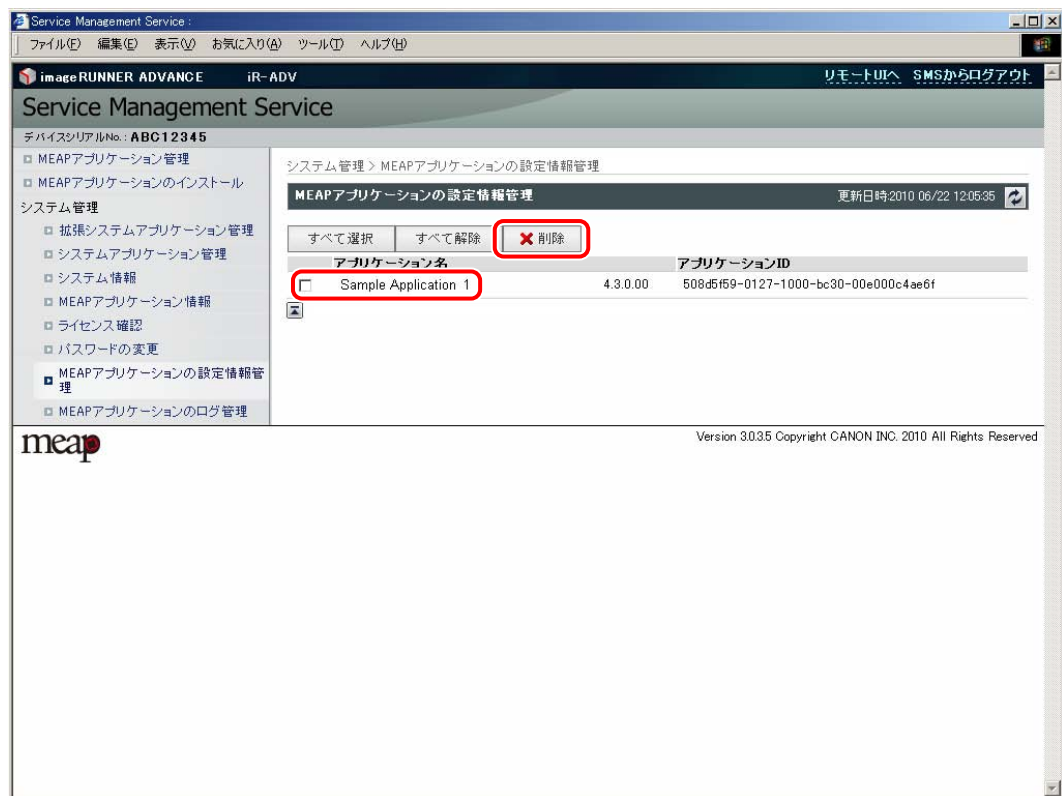
アプリケーションデータの削除を行います。

1 [MEAP アプリケーションの設定情報管理] をクリックします。



[MEAP アプリケーションの設定情報管理] ページが表示されます。

2 削除する MEAP アプリケーションにチェックマークを付けたあと、[削除] をクリックします。



「選択した MEAP アプリケーションの設定情報を削除します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。

 **メモ** 登録されている全てのアプリケーションを選択するには、[すべて選択] をクリックします。

3 削除する内容を確認して、[はい] をクリックします。

「MEAP アプリケーションの設定情報を削除しています ... しばらくお待ちください。」というメッセージが表示されたあと、削除が始まります。

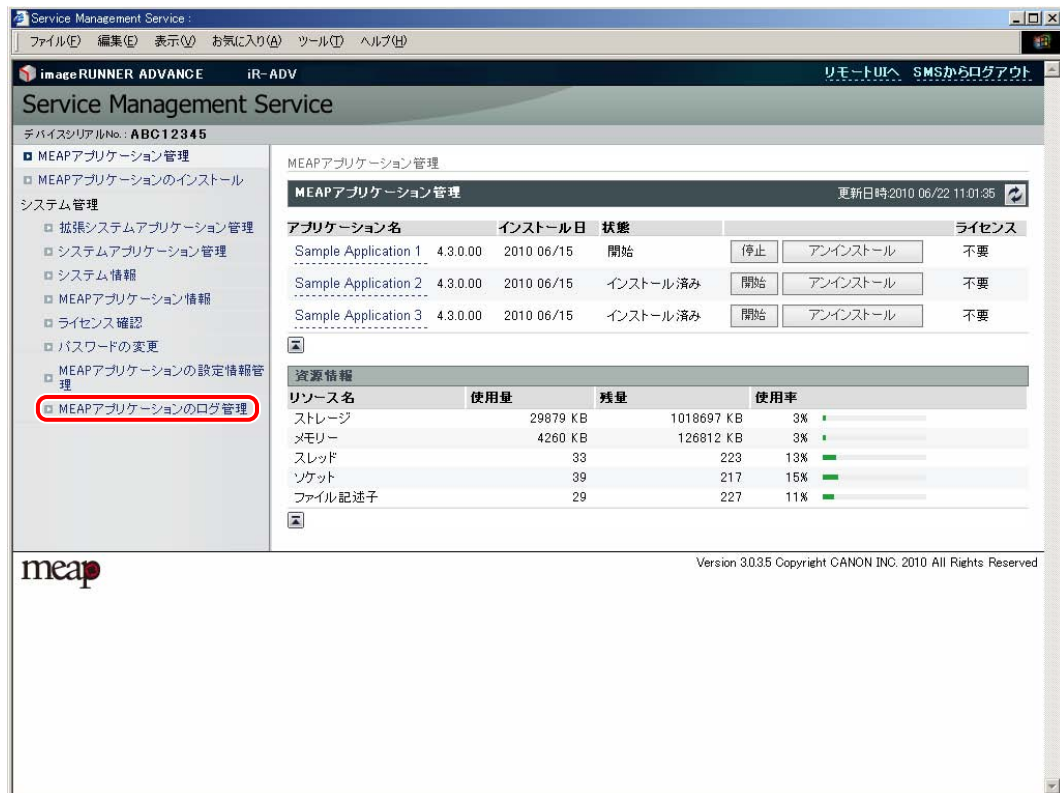
削除が成功すると、完了をお知らせするメッセージが表示され、[MEAP アプリケーションの設定情報管理] ページに戻ります。

SMS 使用時に MEAP アプリケーションのログを管理できるようになりました (MEAP アプリケーションのログ管理)

アプリケーションのログデータのダウンロードや削除ができます。

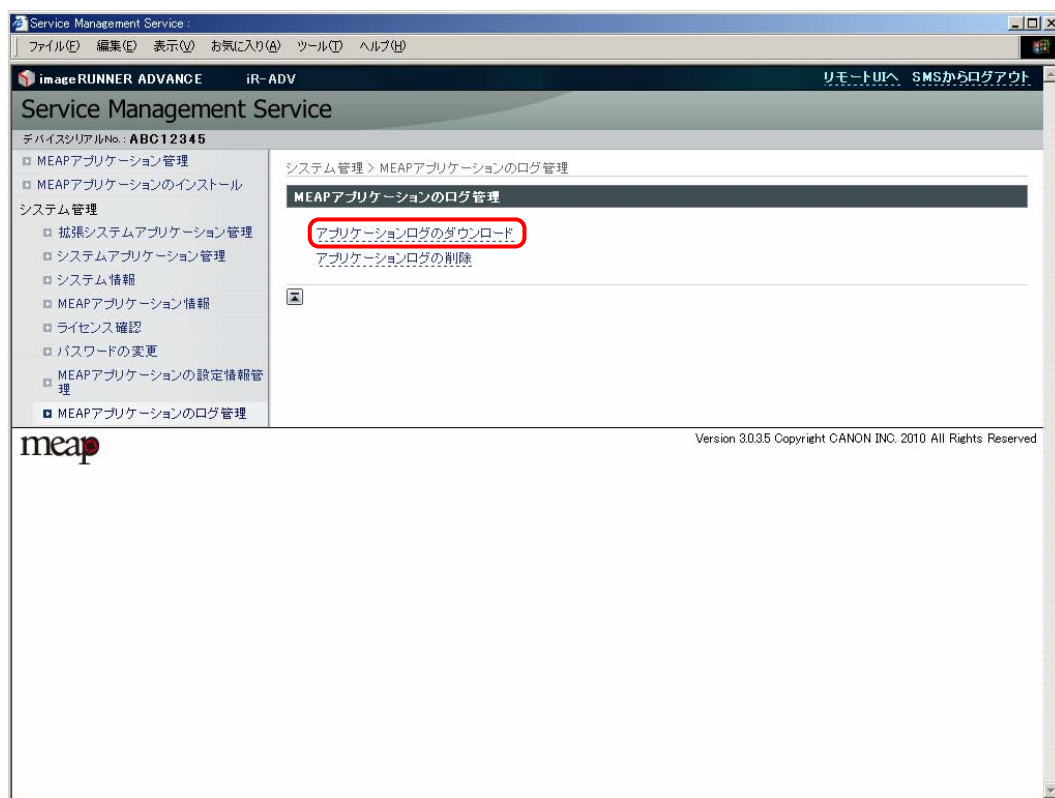
アプリケーションログのダウンロード

1 [MEAP アプリケーションのログ管理] をクリックします。



[MEAP アプリケーションのログ管理] ページが表示されます。

2 [アプリケーションログのダウンロード] をクリックします。



表示されたダイアログボックスに従ってログファイルのダウンロードを行います。

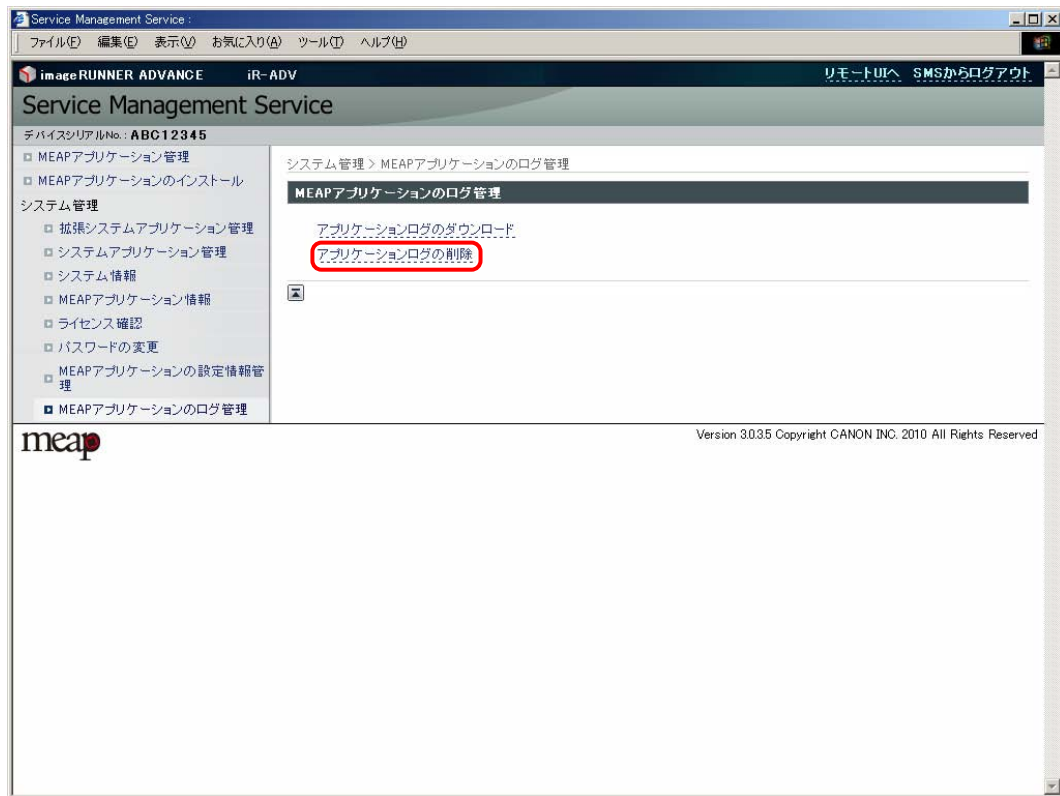
アプリケーションログの削除

1 [MEAP アプリケーションのログ管理] をクリックします。



[MEAP アプリケーションのログ管理] ページが表示されます。

2 [アプリケーションログの削除] をクリックします。



[アプリケーションログの削除] ページが表示されます。

「アプリケーションのログをすべて削除します。よろしいですか?」と表示されます。

3 [はい] をクリックします。

削除が成功すると、完了をお知らせするメッセージが表示され、[MEAP アプリケーションのログ管理] ページに戻ります。

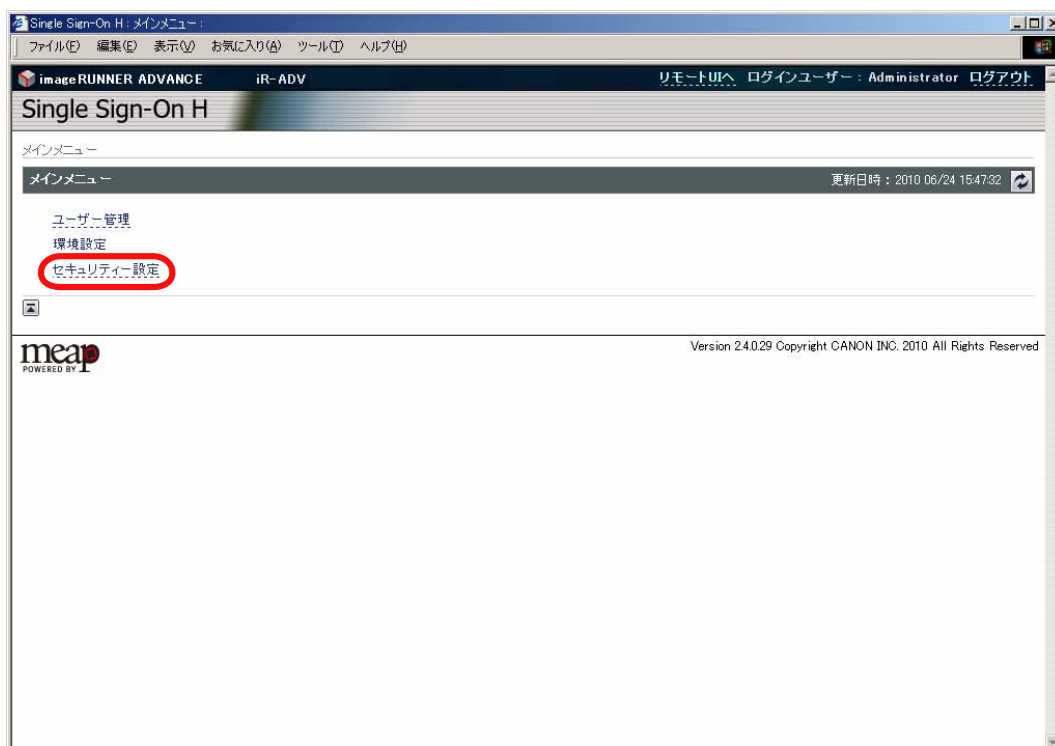
SSO-H 使用時にデフォルトパスワードでのログインを許可できるようになりました（管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する）

タッチパネルディスプレイから、システムアドミニストレーター（Administrator）が工場出荷時のユーザー名とパスワードで本体にログインするときに、パスワードの変更を促す画面が表示されないように設定できます。

重要 工場出荷時のパスワードのまま SSO-H を使用すると、セキュリティ面で問題が起こる可能性があります。パスワードを変更して SSO-H を使用することをおすすめします。

メモ パスワードの有効期限が切れた場合は、この設定にかかわらずパスワードの変更画面が表示されます。

1 ログインしたあと、[セキュリティ設定] をクリックします。



[セキュリティ設定] ページが表示されます。

2 [管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する] にチェックマークを付けます。

Single Sign-On H: セキュリティ設定

imageRUNNER ADVANCE iR-ADV リモート操作 ログインユーザー: Administrator ログアウト

Single Sign-On H

メインメニュー > セキュリティ設定

セキュリティ設定 更新日時: 2010/06/24 15:48:40

更新 キャンセル

パスワードの運用設定

☒ 管理者がデフォルトのパスワードで運用することを許可する

パスワードのポリシー設定

☐ パスワードの長さを設定する
最小文字数: 1 文字以上 *パスワードに必要な最小文字数を設定します。

☐ パスワードの有効期間を設定する
有効期間: 7 日間 (1~180)

☐ パスワードの複雑さを設定する

- ☐ 3文字以上連続する文字列の使用を禁止する
- ☐ 英大文字(A~Z)を1文字以上使用する
- ☐ 英小文字(a~z)を1文字以上使用する
- ☐ 数字(0~9)を1文字以上使用する
- ☐ アルファベット以外の文字(0, \$, #, %など)を1文字以上使用する

ログアウトのポリシー設定

ログアウト機能の有効条件:

- ☐ デバイスの操作パネルからのログイン時
- ☐ リモートアクセス(ネットワーク上のコンピュータなど)からのログイン時
- ☐ デバイスのWebサービスを利用する時のログイン時
- ☐ アプリケーションへの認証情報の設定時

アカウントのログアウトのしきい値:

ログアウト時間: 3 分 (1~60)

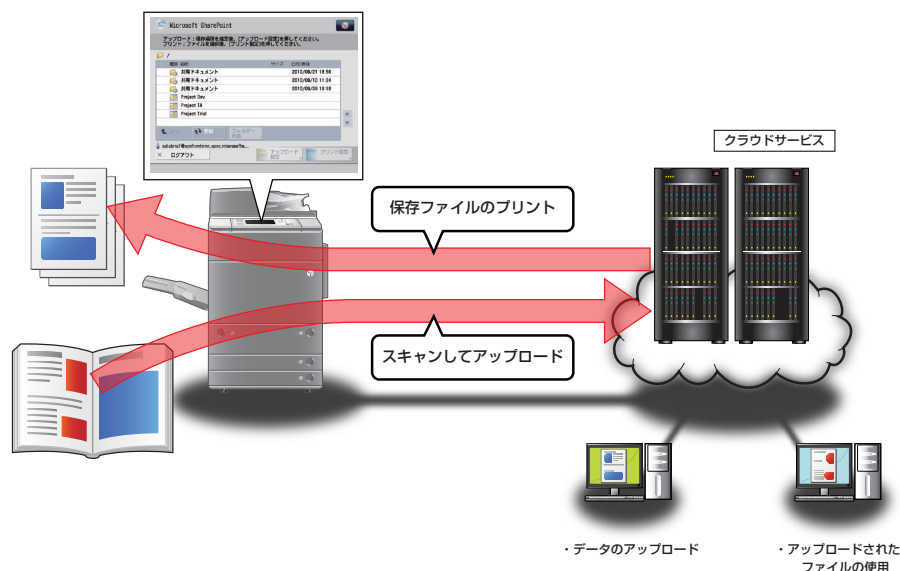
meap POWERED BY

Version 24.0.29 Copyright CANON INC. 2010 All Rights Reserved

3 [更新] をクリックします。

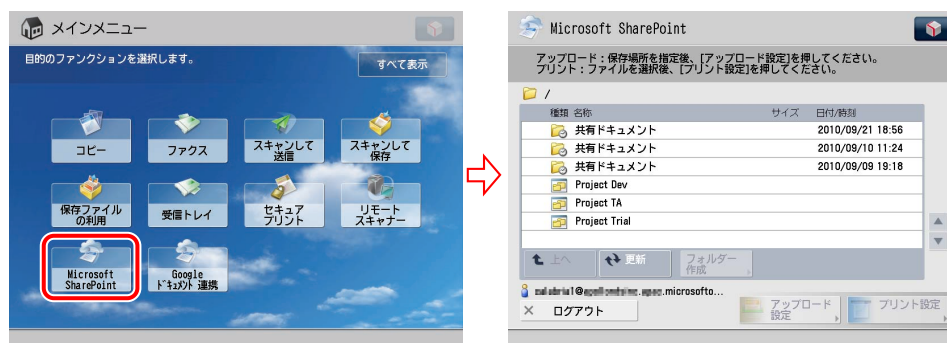
クラウドサービスが利用できるようになりました

Scan and Print for imageRUNNER ADVANCE は、デバイスからクラウドサービスを利用できるようにする MEAP アプリケーションです。本機能を使用することで、クラウドサービスにスキャンしたデータをアップロードしたり、保存されているファイルをプリントできます。



Scan and Print for imageRUNNER ADVANCE で利用できるクラウドサービスは、Microsoft SharePoint Online、Google ドキュメントです。

例：SharePoint Online の場合



メモ

- Scan and Print for imageRUNNER ADVANCEの導入については、担当セールスにお問い合わせください。
- クラウドサービスを利用するには、あらかじめアカウントを取得する必要があります。アカウントの取得には利用規約等への同意が求められます。詳しくは、各クラウドサービスの提供会社のホームページ等を参照してください。
- アップロード／プリントするファイル形式によっては、オプションが必要です。詳細については、「Scan and Print for imageRUNNER ADVANCE ユーザーズガイド」を参照してください。

情報セキュリティ規格（IEEE 2600）について

本製品は、IEEE Std 2600TM-2008（以下、IEEE 2600）という複合機・プリンターの情報セキュリティに関する国際的な規格に準拠しており、IEEE 2600 で定められたセキュリティを実現することができます。

- ✕メモ
- IEEE 2600 で定められた各セキュリティ要件に関する本製品での対応については、下記「IEEE 2600 で定められたセキュリティについて」を参照してください。
 - 本製品ではIEEE 2600.1 CC 認証は取得していません。

IEEE 2600 で定められたセキュリティについて

IEEE 2600 で定められたセキュリティ機能要件と、本体でその要件を満たすために使用する機能は、下記のとおりです。

セキュリティ機能要件	本機で使用する機能	内容
ユーザー認証／ユーザー情報管理 本体を使用するユーザーを認証管理して、不正アクセスを防止	SSO-H(Single Sign-On H)	・ユーザー名／パスワードを登録して、本機を使用するユーザーの個人認証を行います。 ・ユーザー情報として、ユーザー名／パスワードのほか、部門IDやロール（権限）などを管理します。
アクセス制御 ユーザーごとの機能操作を制限	ACCESS MANAGEMENT SYSTEM 拡張キット ^{*1}	ユーザーごとにプリントやコピーなどの機能に対してアクセス制限を行います。
監査ログ ^{*2} セキュリティに関わるユーザー操作を監視	監査ログの生成／エクスポート	ユーザー認証ログやジョブログなどを生成して、リモートUIからcsv形式でエクスポートできます。
残存データの消去 本体内のハードディスク等に残存するデータを完全消去	データ消去キット ^{*1}	ハードディスク内の不要なデータを削除する際に、データを上書き消去します。
本体内のデータ保護 ^{*3} ハードディスク内の各種データや機密情報を保護	HDD データ暗号化／ミラーリングキット ^{*1}	ボックスの保存ファイル、アドレス帳の登録情報やパスワード情報などハードディスクに格納されたデータを暗号化します。
ネットワーク上のデータ保護 暗号化通信により送受信データを保護	IPSec セキュリティボード ^{*1}	暗号化通信のためのセキュリティポリシーを作成して、IP ネットワーク上で送受信されるデータを盗聴、改ざんやなりすましの脅威から保護します。
ソフトウェア検証 セキュリティ機能の自己検証	IPSec セキュリティボード ^{*1}	IPSec 設定が有効時、本体起動時に暗号モジュールの自己テストを自動的に行います。

*1：オプション

*2：「スキャンして保存」／「保存ファイルの利用」のアドバンスドボックス／ネットワーク／メモリーメディアの操作、ジョブホールド機能の操作は、監査の対象外となります。

*3：メモリーメディア内のファイルは、暗号化されません。

ホールド機能の追加

ジョブホールド機能が追加されました。

ジョブホールド機能について

ジョブホールド機能とは、プリントのジョブデータを本製品内のホールドキューという特殊なボックスに一時的に保存する機能です。

プリントとホールド

本製品へのジョブの投入時に、ジョブをプリントとホールドどちらで処理するかを選択できます。

■ プリント

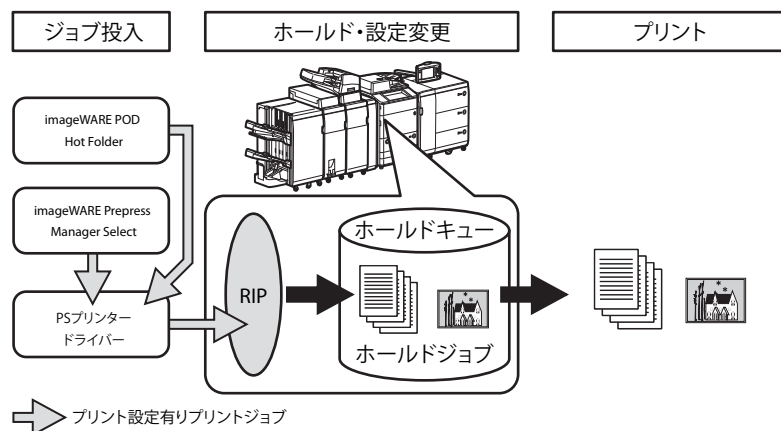
プリントとは、プリントキューに直接ジョブを送信して、すぐにプリントを実行することを指します。プリントは、送信したジョブをそのまま印刷しても問題がないことを確認したうえで行う必要があります。

■ ホールド

ホールドは、ジョブをホールドキュー内で保存し、ホールドジョブリストからジョブを選択して、プリントを実行します。ジョブをホールドすることにより、プリント前に確認してからプリントすることができます。

ホールドキューとは

本製品に投入されたホールド状態のジョブは、ホールドキューに格納されます。ホールドキュー内のジョブはRIP (Raster Image Processor) 処理が終了しています。ホールドされたジョブに対して出力を指示すると、プリントされます。

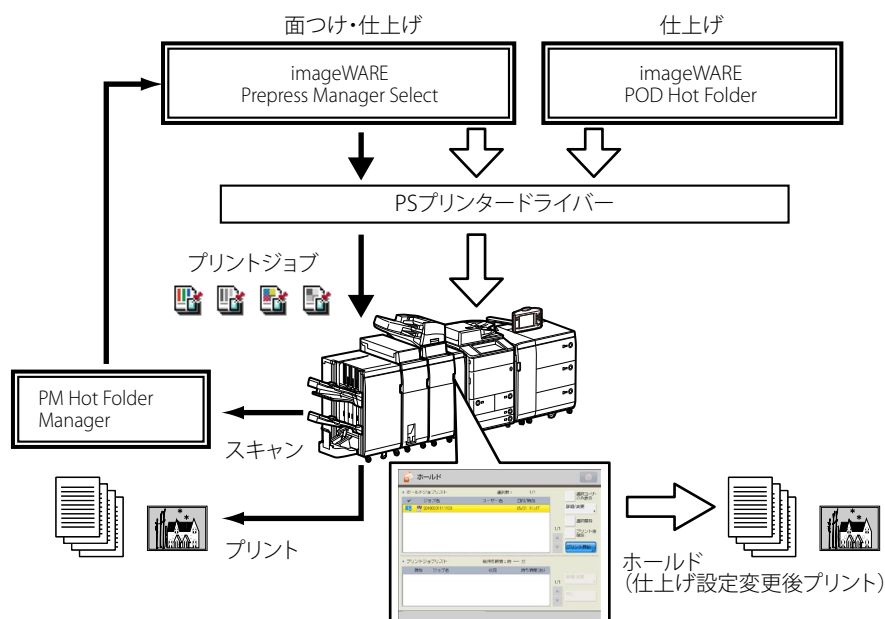


メモ

- この機能は、imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO でお使いいただけます。
- ジョブホールド機能を使用する場合は、[ファンクション設定] (設定/登録) の [ホールド] の [ホールド機能を使用] を「ON」に設定してください。
- ホールドジョブは一定時間を過ぎるとホールドキューから自動的に消去されます。自動消去までの時間は、ホールドジョブを投入してから、またはジョブの設定を変更してから3日です。ホールドジョブの自動消去までの時間は、[ファンクション設定] (設定/登録) の [ホールド] の [ホールドジョブの自動削除までの時間] で変更できます。
- 以下のような場合には、ホールドキューにジョブを保存することができません。(ハードディスクの使用状況によっては記載値に満たない場合があります。)
 - ボックス全体とホールドキューに、合計1500件のファイルが保存されているとき
 - ボックス全体とホールドキューに、合計約6000ページのファイルが保存されているとき

imageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO と関連アプリケーション

ジョブホールド機能を最大限に活用するために、以下の印刷支援アプリケーションがラインアップされています。



■ PSプリンタードライバー

本体を PS プリンターとして使用するためには、オプションの PS 拡張キットが必要です。オプションの詳細については、e-マニュアル > オプションについて (C9075 PRO/C9065 PRO) を参照してください。以下で示す印刷支援アプリケーションや出力管理アプリケーションを使用するときに必要です。

■ imageWARE Prepress Manager Select

Prepress Manager は、印刷支援アプリケーションです。幅広い面付け機能によって、さまざまなドキュメントを作成し、編集、印刷することができます。エクスポート機能を使って、取り込んだデータを PDF、JPEG、TIFF、BMP へ変換できます。また、取り込んだスキャン画像を、付属のイメージエディタで編集、補正することもできます。

■ PM Hot Folder Manager

PM Hot Folder Manager は、Prepress Manager に付属するスキャン支援アプリケーションです。コンピューターからリモートスキャンを行ったり、コンピューター上のフォルダーへ自動的に画像を取り込んだりできるホットフォルダー^{*1}機能を持っており、定型業務を設定しておくのに適しています。

■ imageWARE POD Hot Folder

ホットフォルダー^{*1}として登録されているコンピューター上のフォルダーを定期的に監視します。サポートしている PDF ファイルが当該フォルダーへドラッグ&ドロップされると、あらかじめ設定されている仕上げ設定などを付加し、PS プリンタードライバーへファイルを送信します。

ジョブチケットを利用したワークフロー

JDF（Job Definition Format）^{*2}の属性情報（ジョブチケット）を持っているホールジョブは、本製品にセットされている用紙の種類やサイズを確認してからプリントしたり、試し印刷をして、仕上げの設定変更を行ってからプリントしたりするなど、1ステップごとに確認しながら作業を進められます。JDF以外の属性情報を持つジョブの設定変更は、プリンタードライバーやimageWARE Prepress Managerなどの関連するアプリケーションから行います。

- 重要**
- JDFジョブはimageRUNNER ADVANCE C9075 PRO/C9065 PRO でお使いいただけます。
 - プリンタードライバーから投入したジョブは、ジョブチケットの編集はできません。

- メモ**
- ジョブチケットにはジョブ全体に適用されるものと、ジョブをページ単位で区切ったページ範囲ごとに適用されるものがあります。
 - 本製品のJDFジョブへの対応時期については、本製品をお買い求めの販売店、または担当サービスにお問い合わせください。
 - 設定項目によって、ジョブチケットの編集ができるものとできないものがあります。詳しくは次の表を参照してください。

ジョブチケットの編集が可能な設定項目	ジョブチケットの編集が不可能な設定項目
部数 用紙選択（用紙タイプ／給紙段） とじしろ（とじ位置／とじしろ量） 印字領域の移動 中間調 トナー濃度調整 グラデーションスムージング カラーモード 仕上げ ホチキス ソート グループ シフト 排紙面指定	両面／片面 用紙選択（用紙サイズ） ページ番号印字 部数印字 表紙／裏表紙／合紙／インデックス紙 仕上げ Z 折り／2 つ折り／C 折り／外 3 つ折り／4 つ折り パンチ 製本

*1 ホットフォルダー（Hot Folder）：

コンピューター上のフォルダーにあらかじめ印刷属性を設定しておき、そこへファイルをドラッグ＆ドロップするだけで生産機器へ印刷データを送信することができる。複雑な設定でもその都度設定する必要が無いため、プリントオンデマンド業務の効率化、標準化を図ることができる。

*2 JDF（Job Definition Format）：

国際協議会 CIP4 が提唱する XML ベースのプリントジョブチケット規格。印刷の全工程（プリプレス、プレス、ポストプレス）における属性情報が記述されている、マネジメントシステムと生産機器間の情報伝達を双方向で行うための業界標準フォーマット。

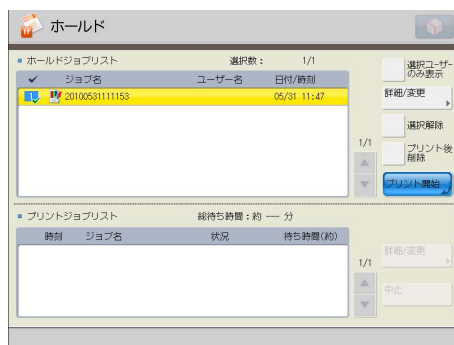
ホールド画面について

メインメニュー画面から「ホールド」を選択すると、ホールド画面が表示されます。ホールド画面には、上段にホールジョブリスト、下段にプリントジョブリストが表示されます。

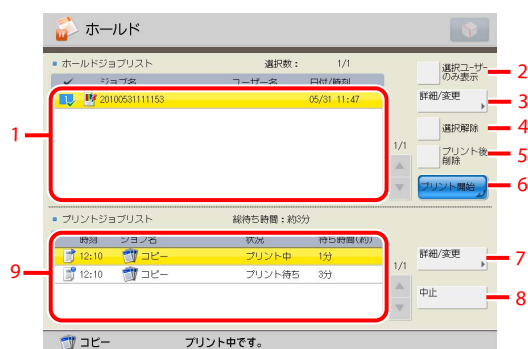
ホールジョブリスト画面には、ホールキューに保存されているすべてのホールジョブが表示されます。

プリントジョブリストには、プリントおよびプリント待機中のジョブが表示されます。

■ ホールド画面

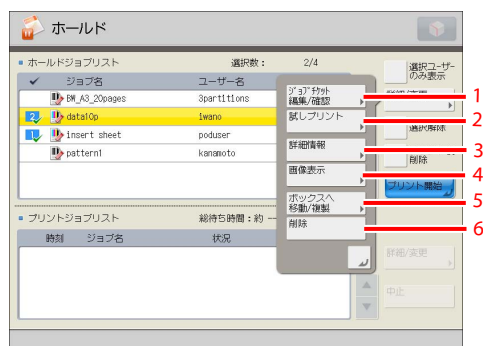


■ ホールドジョブリスト／プリントジョブリスト画面



1	ホールドジョブリスト ホールドキューに保存されているジョブを表示します。	6	プリント開始 選択したジョブのプリントを開始します。
2	全ユーザーを表示／選択ユーザーのみ表示 ジョブを投入したユーザー名に基づいて表示を切り替えます。すべてのユーザーのジョブを表示したり、指定したユーザーのジョブのみを表示したりできます。	7	詳細 / 変更 (プリントジョブリスト) [優先プリント]、[詳細情報] のボタンを表示します。
3	詳細 / 変更 (ホールドジョブリスト) [ジョブチケット編集/確認]、[試しプリント]、[詳細情報]、[画像表示]、[ボックスへ移動 / 複製]、[削除] のボタンを表示します。	8	中止 選択した実行中ジョブのプリントを中止します。
4	全選択 (100 まで) / 選択解除 ホールドジョブリストのジョブを全選択したり、選択を解除したりできます。	9	プリントジョブリスト プリント中、プリント待機中のジョブを表示します。
5	プリント後削除 プリント終了後、ジョブを自動的に削除する設定ができます。		

■ ホールドジョブ詳細／変更画面



1	ジョブチケット編集 / 確認 選択したジョブのジョブチケットを編集または確認します。(→ジョブホールド機能について P.73) [ジョブチケット編集 / 確認] はジョブチケットを持っているジョブを選択した場合のみ有効です。プリンタードライバーから投入されたジョブを選択した場合は、ジョブチケットの編集はできません。	4	画像表示 選択したジョブのプレビューを表示します。(→ジョブの画像を確認する P.83)
2	試しプリント 選択したジョブの試しプリントをします。(→プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する (試しプリント) P.81)	5	ボックスへ移動 / 複製 選択したジョブをボックスに移動または複製できます。(→ボックスへジョブを移動 / 複製する P.83)
3	詳細情報 選択したジョブの詳細情報を表示したり、ジョブ名の変更ができます。(→ジョブの詳細情報を確認する P.82)	6	削除 選択したジョブをリストから削除します。

■ プリントジョブ詳細／変更画面



1	優先プリント リストから選択したジョブを優先してプリントします。(→優先プリントする P.85)
2	詳細情報 ジョブを一時的に停止する場合は、[一時停止] を押します。メモリーに残ったプリントデータを強制的にプリントする場合は、[排出] を押します。エラーを一時的に解除してプリントを続行する場合は、[エラースキップ] を押します。プリントジョブを選択したとき、エラースキップで一時解除できるエラーの種類については e-マニュアル > プリントを参照してください。
3	中止 選択した実行中ジョブのプリントを中止します。

ホールドキューにファイルを保存する

ホールドキューにファイルを保存する方法について説明します。

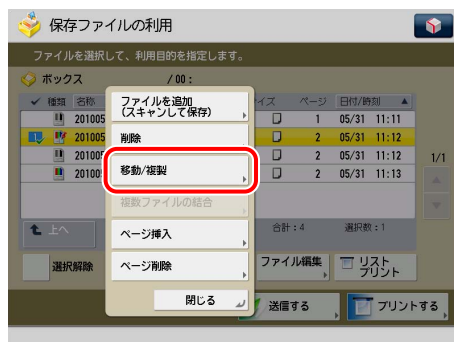
- メモ**
 - ホールドキューに文書を保存する方法は以下のとおりです。
 - ボックスにある文書を移動／複製する
 - プリンタードライバーからホールドキューへ保存する
 - プリント設定のないファイルはホールドキューに移動または複製できません。
 - プリンタードライバーからファイルを保存する方法については、e-マニュアル > プリントを参照してください。

ボックスからファイルを移動／複製する

- 重要**

受信トレイにある文書や、アドバンスドボックス、ネットワーク、メモリーメディアにあるファイルは、ホールドキューに移動したり複製したりすることはできません。

- メインメニュー画面から [保存ファイルの利用] を押したあと、[ボックス] を押します。
- 目的のボックスを指定して、移動または複製するファイルを選択したあと、[ファイル編集] → [移動／複製] を押します。



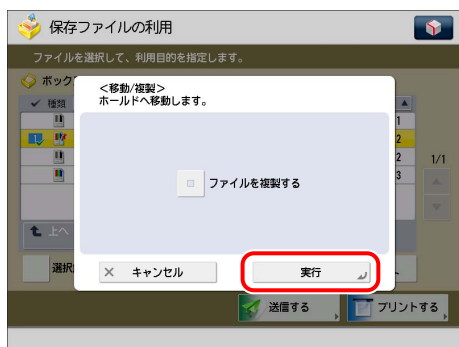
ボックス内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、[全選択 (100 ファイルまで)] を押します。(ファイルを選択しているときは、[選択解除] に変わります。)

-  **メモ**
- 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
 - ファイルの選択をすべて解除するには、[選択解除]を押します。（このとき[選択解除]は、[全選択（100ファイルまで）]に変わります。）

3 [ホールド] を押します。



4 [実行] を押します。



ホールドキューにファイルが保存されます。

[ファイルを複製する] にチェックを付けると、ボックスのファイルを残したまま、ホールドキューにコピーを作成することができます。

ホールドキューにファイルが移動または複製できない場合は、実行できないことを知らせるメッセージが表示されます。

ファイルを移動または複製することができなかった場合は、もとのボックスにそのまま残ります。

複数ファイルの移動または複製中にエラーが発生した場合は、正しく移動または複製できたファイル数が表示されます。

-  **メモ**
- 移動または複製したファイルのファイル名は、もとのファイル名と同じです。
 - 移動または複製中に操作部電源スイッチが切れた場合は、その時点で完了したところまで移動または複製されます。

ホールドキュー内のファイルをプリントする

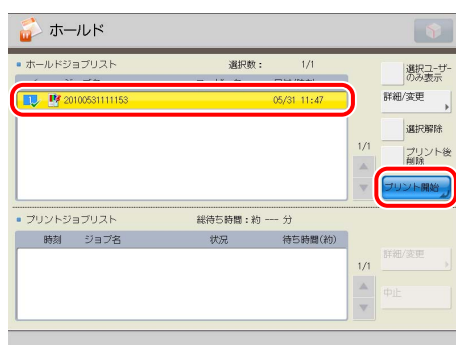
ホールドキュー内に保存したファイルを本製品からプリントする方法について説明します。

プリントする順番は指定できます。

1 [ホールド] を押します。



2 ホールドジョブリストからプリントする順番にジョブを選択したあと、[プリント開始] を押します。



7 件以上のジョブが保存されている場合は [▼] [▲] を押して表示させます。複数のジョブを選択できます。

[全選択 (100 まで)] を押すと、ホールドキュー内のジョブを先頭から 100 ジョブ目まですべて選択できます。(ジョブを選択しているときは、[選択解除] に変わります。)



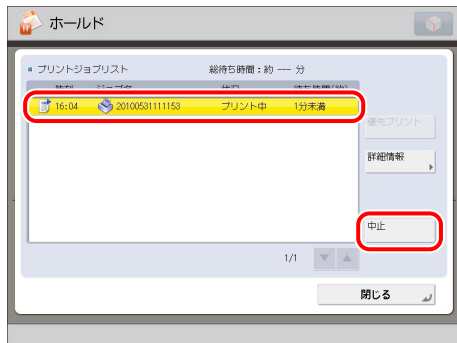
- 選択した順に番号が表示され、番号順にプリントされます。
- 選択したジョブは、もう一度押すと選択を解除できます。
- [選択解除] を押すと、ファイルの選択がすべて解除されます。(このとき [選択解除] は、[全選択 (100 まで)] に変わります。)
- [プリント開始] を押すと、プリントジョブリスト画面が表示されます。

ジョブを中止する

ホールドキュー内に保存したファイルのプリントは、タッチパネルディスプレイや状況確認／中止画面から中止できます。

タッチパネルディスプレイから中止する

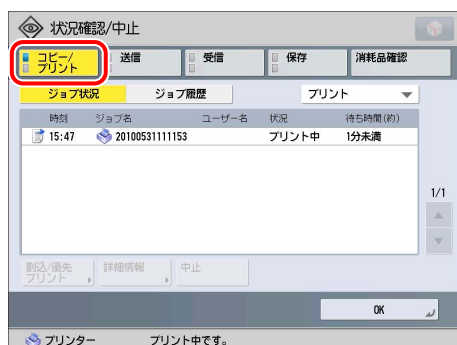
- 1 プリントジョブリスト画面で中止するジョブを選択したあと、[中止] を押します。



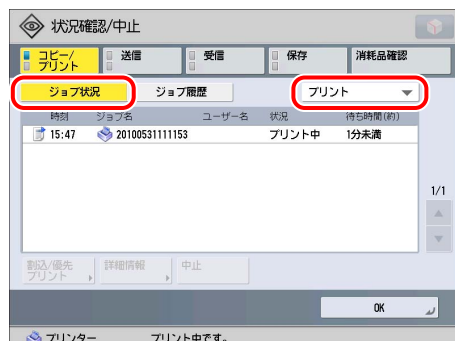
ジョブが中止されます。

状況確認／中止画面から中止する

- 1 (状況確認／中止) を押します。
- 2 [コピー / プリント] を押します。



- 3 [ジョブ状況] を押したあと、ドロップダウンリストから [プリント] を選択します。



複数のジョブを選択して中止することはできません。1つずつ選択して中止してください。

- 4 中止するジョブを選択したあと、[中止] を押します。
 - 5 [はい] を押します。
- ジョブが中止されます。

 **メモ** 中止したジョブは、ジョブ履歴の画面で「NG」と表示されます。

6 [OK] を押します。

プリントジョブリスト画面に戻ります。

プリントの仕上がりや保存ファイルの内容を確認する（試しプリント）

ホールドキュー内に保存したファイルを、部数とプリント範囲を変更してプリントすることができます。プリント結果を確認して、必要に応じて設定を変更します。

1 ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[詳細 / 変更] → [試しプリント] を押します。



2 部数、プリント範囲を設定し、[プリント開始] を押します。



 **メモ** プリンタードライバーから投入されたジョブによってはプリント範囲が設定できないジョブがあります。

● [指定ページ] を選択した場合：

- [開始ページ]、[終了ページ] を押して、試しプリントをする最初と最後のページをそれぞれ [－] [＋] で選択します。

-  **メモ**
- 指定ページを選択した場合、指定したページ数は、仕上がりのページ数に準じます。
 - 指定ページを選択した場合、ホチキス、折り、断裁などの処理は行いません。
 - 指定ページは部数が 1 部の場合のみ有効です。

ホールドキュー内のファイルを整理する

ホールドキュー内に保存されているジョブの名称を変更したり、詳細情報を表示したり、ジョブを移動／複製したり、内容を表示したりすることができます。

ジョブの詳細情報を確認する

- 1 ホールドジョブリストまたはプリントジョブリストから目的のジョブを選択したあと、「詳細／変更」→「詳細情報」を押します。



- メモ**
- 複数のジョブを選択して「詳細情報」を押した場合は、選択されている（色つき）ジョブのみ詳細情報が表示されます。
 - ジョブ名を変更する場合は、「ジョブ名を変更する」を押して、変更するジョブ名を入力したあと、「OK」を押します。
 - ジョブ名なし（空欄）の場合、「OK」を押すことはできません。

- 2 詳細情報を確認したあと、「OK」を押します。

- メモ**
- 「カラー／白黒」には、ジョブを読み込んだときのカラー情報が表示されます。
 - ボックスから移動／複製したジョブやプリンタードライバーから投入したジョブは、「プリント設定あり」の状態になります。JDF対応のアプリケーションから投入したジョブは、「ジョブチケットあり」の状態になります。

アイコン	ファイルの種類	カラー／白黒
	プリント設定あり	白黒 2 値
	プリント設定あり	カラー (RGB)
	プリント設定あり	白黒 (CMYK)
	プリント設定あり	カラー (CMYK)
	ジョブチケットあり	白黒 2 値
	ジョブチケットあり	カラー

ジョブの画像を確認する

- 1 ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[詳細 / 変更] → [画像表示] を押します。



メモ 複数のジョブを選択して「画像表示」を押した場合は、選択されている（色つき）ジョブのみプレビューが表示されます。

- 2 [◀] [▶] を押して確認したいページを選択します。



- 3 画像を確認したあと、[OK] を押します。

[🔍] [🔍] を押して画像の倍率を変更することができます。

拡大した画像は、[◀] [▶] [▼] [▲] を押して、表示箇所を移動することができます。

で表示されている画像の位置を確認することができます。

ボックスへジョブを移動／複製する

- 1 ホールドジョブリストから、移動または複製するジョブを選択したあと、[詳細 / 変更] → [ボックスへ移動 / 複製] を押します。



ホールドキュー内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、[全選択 (100 まで)] を押します。
(ファイルを選択しているときは、[選択解除] に変わります。)

- メモ 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ファイルの選択をすべて解除するには、[選択解除]を押します。（このとき[選択解除]は、[全選択（100まで）]に変わります。）

2 ジョブを移動または複製するボックスを選択したあと、[移動] または [複製] を押します。



ボックスにジョブが保存されます。

ボックスにジョブが移動または複製できない場合は、実行できないことを知らせるメッセージが表示されます。

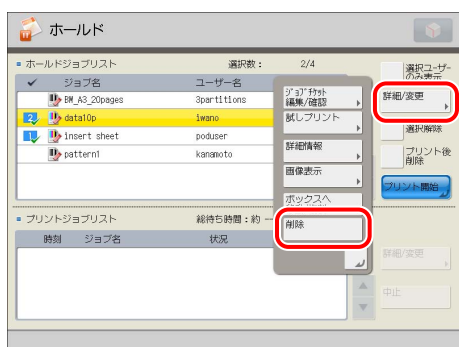
ジョブを移動または複製することができなかった場合は、もとのホールドキューにそのまま残ります。

複数ジョブの移動または複製中にエラーが発生した場合は、正しく移動または複製できたジョブ数が表示されます。

- メモ 移動または複製したジョブのジョブ名は、もとのジョブ名と同じです。
- プリンタードライバーから投入されたジョブによってはボックスに移動できないジョブがあります。
- 移動または複製中に操作部電源スイッチが切れた場合は、その時点で完了したところまで移動または複製されます。

ジョブを削除する

1 ホールドジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[詳細 / 変更] → [削除] を押します。



ホールドキュー内のファイルを先頭から 100 ファイル目まですべて選択するには、[全選択（100 まで）]を押します。（ファイルを選択しているときは、[選択解除]に変わります。）

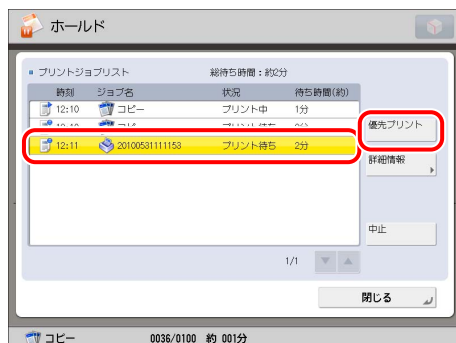
- メモ 選択したファイルは、もう一度押すと選択を解除することができます。
- ファイルの選択をすべて解除するには、[選択解除]を押します。（このとき[選択解除]は、[全選択（100まで）]に変わります。）

2 [はい] を押します。

優先プリントする

優先プリントを行うと、現在プリント中のジョブの次にプリントを開始します。

- 1 プリントジョブリストから目的のジョブを選択したあと、[優先プリント]を押します。



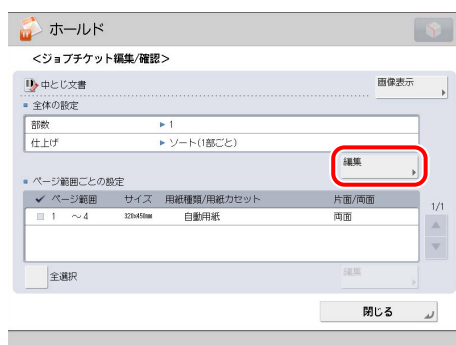
ジョブの部数を変更する (部数)

重要 本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。

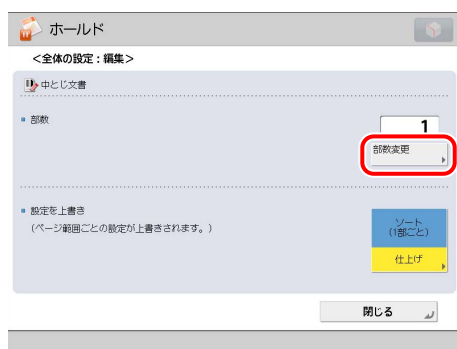
- 1 目的のジョブを選択して、[詳細 / 変更] → [ジョブチケット編集 / 確認] を押します。



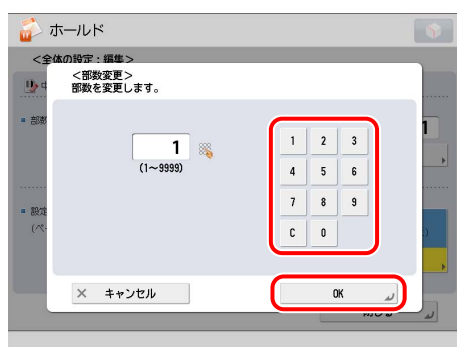
- 2 < 全体の設定 > の [編集] を押します。



3 [部数変更] を押します。



4 部数を入力して、[OK] を押します。



5 [閉じる] を押します。

プリントした用紙を仕分ける（仕上げ）

仕上げモードを設定すると、プリントした用紙をページで分けたり、部数で分けたりして排紙できます。

この機能を使用するために必要なオプションについては、e-マニュアル>オプションについて（C9075 PRO/C9065 PRO）を参照してください。

- 重要**
- 本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。
 - 本機能と組み合わせて使用できない機能についてはe-マニュアル>保存ファイルの利用を参照してください。
 - ユーザー設定サイズ、封筒、はがき、OHPフィルム、第二原図、ラベル用紙を選択した場合は、仕上げモードを設定することはできません。
 - ホチキスを設定した場合は、常に印刷した面を裏側にして出力します。

メモ 設定を解除するには、[仕上げ] → [キャンセル] を押します。

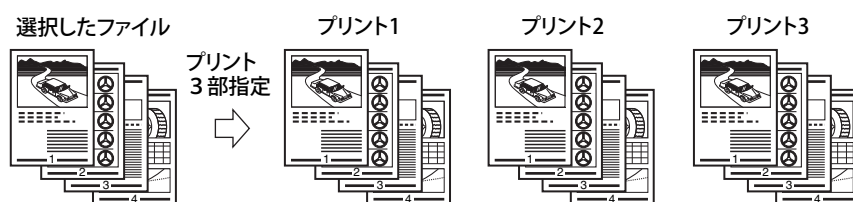
各オプション装着時に設定できる仕上げモードと指定できる用紙サイズは、以下のとおりです。

装着オプション	シフト (ずらし)	90度回転	ホチキス			断裁	排紙面指定
			コーナー	ダブル	中とじ		
ステイプルフィ ニッシャー・A1 (LP)	○ A3、B4、 A4、A4R、 B5	×	○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚)	○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚)	×	×	○
(ステイプルフィ ニッシャー・A1 (LP) +パンチャーユニッ ト・BE1)	(○ A3、B4、 A4、A4R、 B5)	(×)	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(×)	(×)	(○)
(ステイプルフィ ニッシャー・A1 (LP) +ペーパーフォー ルディングユニッ ト・G1)	(○ A3、B4、 A4、A4R、 B5)	(×)	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(×)	(×)	(○)

装着オプション	シフト (ずらし)	90度回転	ホチキス			断裁	排紙面指定
			コーナー	ダブル	中とじ		
中綴じフィニッ シャー・A1 (LP)	○ A3、B4、 A4、A4R、 B5	×	○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚)	○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚)	○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm (SRA3)、305 × 457 mm、 A3、B4、A4R (25 枚)	×	○
(中綴じフィニッ シャー・A1 (LP) +パンチャーユニッ ト・BE1)	(○ A3、B4、 A4、A4R、 B5)	(×)	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm (SRA3)、305 × 457 mm、 A3、B4、A4R (25 枚))	(×)	(○)
(中綴じフィニッ シャー・A1 (LP) +ペーパーフォー ルディングユニッ ト・G1)	(○ A3、B4、 A4、A4R、 B5)	(×)	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm (SRA3)、305 × 457 mm、 A3、B4、A4R (25 枚))	(×)	(○)
(中綴じフィニッ シャー・A1 (LP) +インナートリ マー・A1)	(○ A3、B4、 A4、A4R、 B5)	(×)	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ A4/B5 (100 枚)、A3/B4/ A4R (50枚))	(○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm (SRA3)、305 × 457 mm、 A3、B4、A4R (25 枚))	(○ 330 × 483 mm、320 × 450 mm (SRA3)、305 × 457 mm、 A3、B4、A4R)	(○)

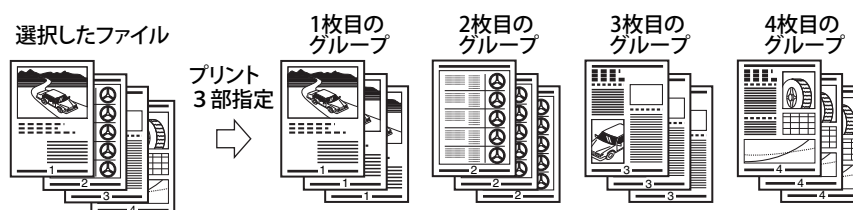
■ 「ソート」を設定した場合

ページぞろえを行い、排紙します。プリントは次のように排紙されます。



■ 「グループ」を設定した場合

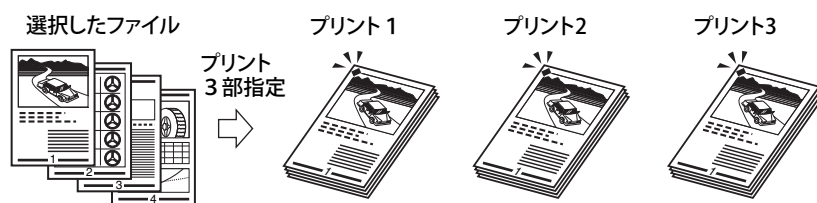
原稿の各ページごとに仕分けして排紙します。プリントは次のように排紙されます。



■「ホチキス」を設定した場合

ページぞろえを行い、ホチキスします。プリントは次のように排紙されます。

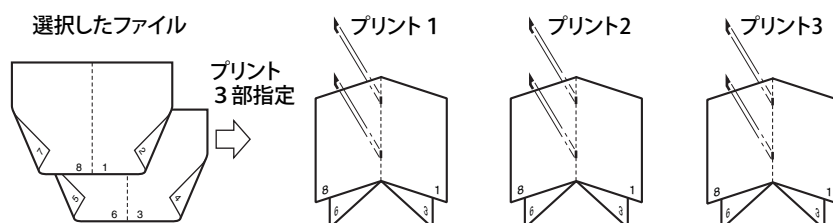
[コーナー] (左上) を選択した場合



[ダブル] (左) を選択した場合



[中とじ] を選択した場合

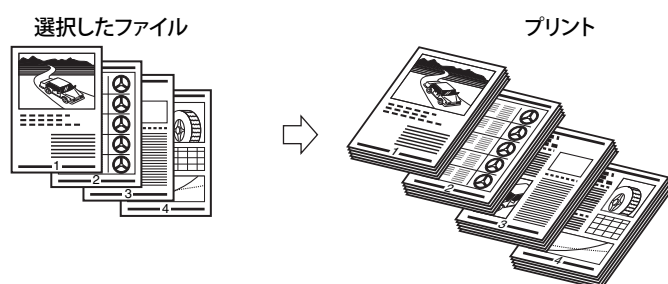


- **重要** [中とじ] は、両面プリントを設定している場合のみ設定できます。
- 中とじは、紙の種類、枚数によっては、折り具合が異なることがあります。

- **メモ** 上のイラストのように、小冊子になるように読み込んだ文書をセットしてください。(→ e-マニュアル> 保存ファイルの利用、e-マニュアル> スキャンして保存)

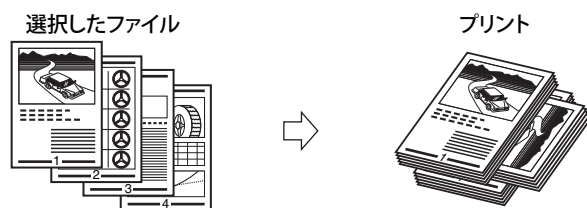
■「ノンソート」の場合

ソート、グループ、ホチキスのいずれも設定していない場合、プリントは次のように排紙されます。



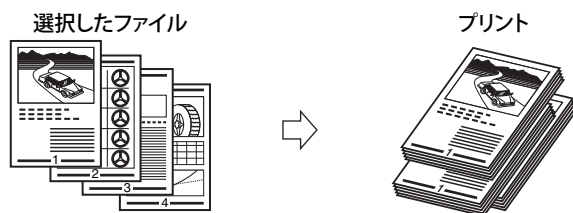
■「90度回転」を設定した場合

同じサイズ用の紙をセットした場合、ページぞろえを行い、1部ずつ交互に方向を変えて排紙します。



■ 「シフト（ずらし）」を設定した場合

用紙を手前にずらして排紙します。「指定部数シフト（ずらし）」を設定した場合は、指定した部数ごとに用紙を手前にずらして排紙します。



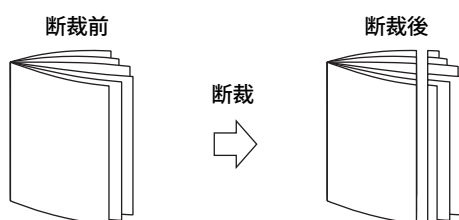
■ 「排紙面指定」を設定した場合

出力する用紙の面をオモテ面にするかウラ面にするかを指定できます。[排紙面指定] を押して、以下の項目を選択します。

[自動]：	1枚の原稿を読み込んでプリントした場合は、印刷した面を表側にして出力します。それ以外の場合は、印刷した面を裏側にして出力します。
[フェイスダウン（正順排紙）]：	常に印刷した面を裏側にして出力します。
[フェイスアップ（逆順排紙）]：	常に印刷した面を表側にして出力します。

■ 「断裁」を設定した場合

中とじした用紙の小口を切りそろえます。



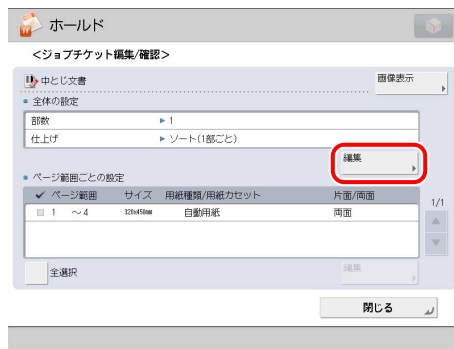
重要 「断裁する」は、「中とじ」を選択した場合に設定できます。

ページをそろえてプリントする（ソート）

1 目的のジョブを選択して、[詳細 / 変更] → [ジョブチケット編集 / 確認] を押します。



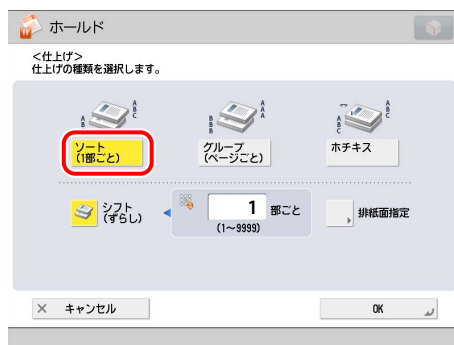
2 < 全体の設定 > の [編集] を押します。



3 [仕上げ] を押します。



4 [ソート (1部ごと)] を押します。



排紙面を選択するときは、[排紙面指定] を押します。

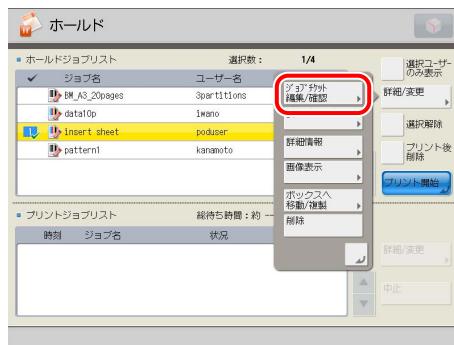
5 [OK] を押します。

指定したモードが設定され、全体の設定画面に戻ります。

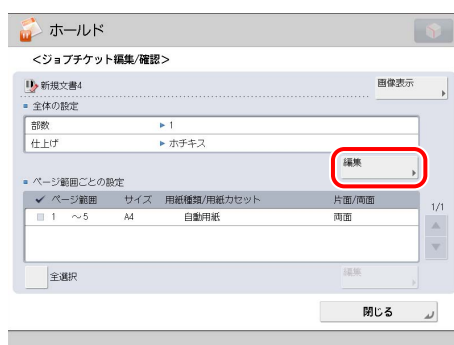
6 [閉じる] を押します。

ページごとに仕分けてプリントする（グループ）

- 1 目的のジョブを選択して、[詳細 / 変更] → [ジョブチケット編集 / 確認] を押します。



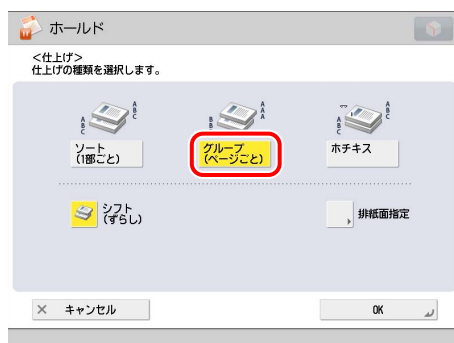
- 2 < 全体の設定 > の [編集] を押します。



- 3 [仕上げ] を押します。



- 4 [グループ（ページごと）] を押します。



排紙面を選択するときは、[排紙面指定] を押します。

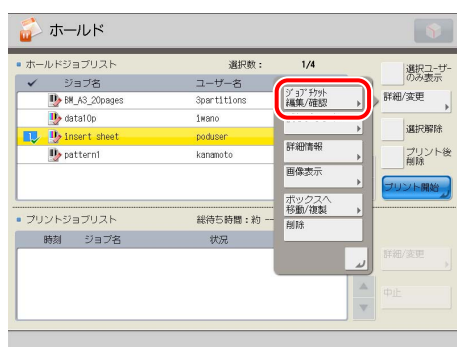
- 5 [OK] を押します。
指定したモードが設定され、全体の設定画面に戻ります。

- 6 [閉じる] を押します。

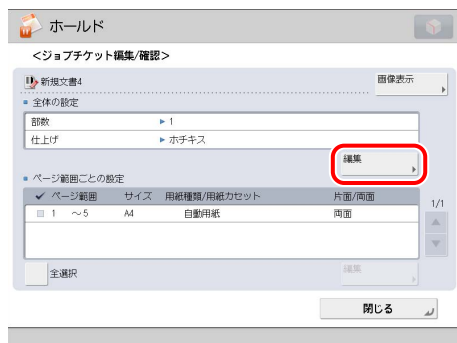
ページ順に仕分けてホチキスする（ホチキス）

- 重要**
- ホチキスは、フィニッシャーを装着している場合のみ設定できます。
 - 用紙の種類は必ず正しく設定してください。特に厚紙など、特別な種類の用紙にプリントする場合は正しく設定されていないと画像不良が起こる可能性があり、定着器が汚れたり紙の巻きつきが発生したりして、担当サービスによる修理が必要になる場合もありますので、必ず正しく設定してください。

- 1 目的のジョブを選択して、[詳細 / 変更] → [ジョブチケット編集 / 確認] を押します。



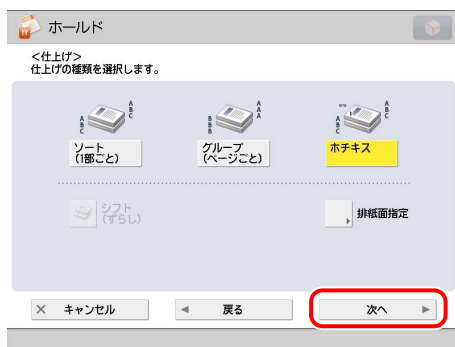
- 2 <全体の設定> の [編集] を押します。



- 3 [仕上げ] を押します。

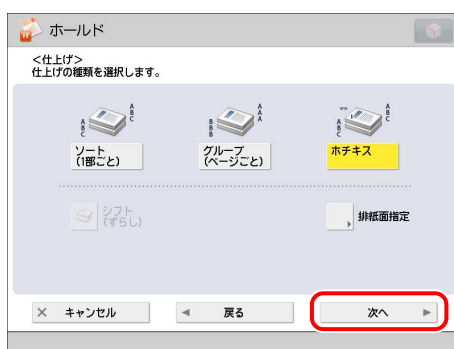


4 [ホチキス] を押します。

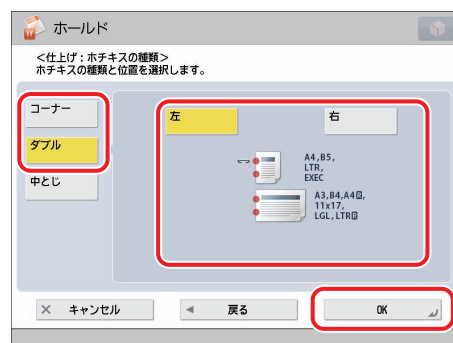
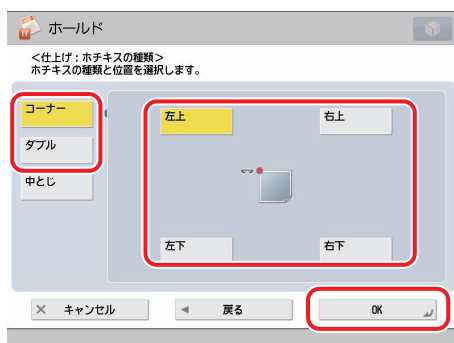


● ステイプルフィニッシャー・A1(LP)を装着している場合：

- ☐ [次へ] を押します。

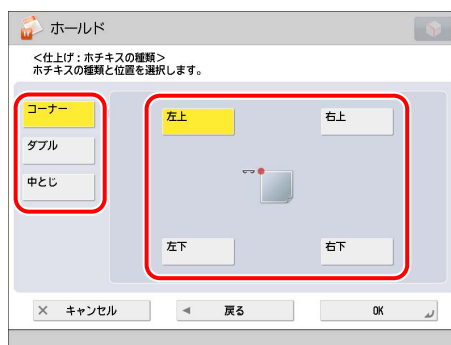


- ☐ ホチキスの種類（[コーナー] または [ダブル]）と位置を選択したあと、[OK] を押します。



● 中綴じフィニッシャー・A1(LP)を装着している場合：

- [次へ] を押します。
- ホチキスの種類（[コーナー]、[ダブル]、[中とじ]）を選択します。
 [コーナー] または [ダブル] を選択した場合は以下の手順になります。
 [コーナー] または [ダブル] を押して、ホチキスの位置を選択したあと、[OK] を押します。



[中とじ] を選択した場合は以下のようになります。

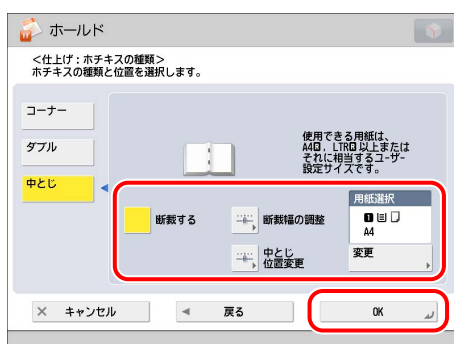
[中とじ] を押します。

用紙の中とじ位置をずらしたい場合は、[中とじ位置変更] を押して、調整する用紙を選択、位置を調整したあと、[OK] を押します。

断裁する場合は、[断裁する] を押します。

メモ [断裁する] は、[中とじ] を選択したときに表示されます。

断裁幅を調整する場合は、[断裁幅の調整] を押して、断裁幅を調整したあと、[OK] を押します。



本文に使用する用紙を [手差し用紙変更] から選択した場合は、用紙サイズを選択したあと [次へ] を押し、用紙種類を選択したあと [OK] を押します。

インサーター・H1から給紙する場合は、[プリントしない] を選択します。

重要 本文にする用紙は、60～209 g/m2 のものを使用してください。（中綴じフィニッシャー・A1（LP）の場合）

メモ を押すと、選択されている用紙の詳細情報が表示されます。

5 [閉じる] を押します。

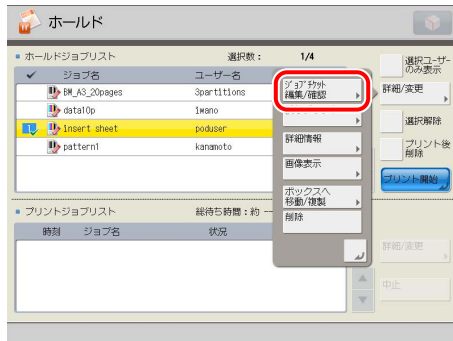
ページ範囲ごとの設定を編集する

ジョブの全体にはではなく、ジョブをページ単位で区切ったページ範囲ごとに対して適用されるジョブチケットの編集について説明します。

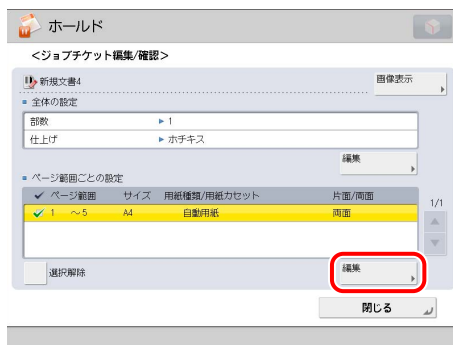
「排紙方法」の各項目は、ページ範囲ごとの設定では変更できません。全体の設定で変更してください。

- 重要**
- 本機能は、ジョブチケットがないジョブには使用できません。
 - 本機能と組み合わせて使用できない機能についてはe-マニュアル>保存ファイルの利用を参照してください。

1 目的のジョブを選択して、「詳細 / 変更」→「ジョブチケット編集 / 確認」を押します。



2 該当するページ範囲を選び、＜ページ範囲ごとの設定＞の「編集」を押します。



5 件以上のページ範囲が保存されている場合は「▼」「▲」を押して表示させます。

複数のページ範囲を選択することもできます。複数のページ範囲は 100 件まで選択できます。

- メモ**
- 選択したページ範囲は、もう一度押すと選択を解除することができます。
 - ページ範囲の選択をすべて解除するには、「選択解除」を押します。（このとき「選択解除」は、「全選択」に変わります。）

3 各項目を設定したあと、「OK」を押します。



- メモ**
- 複数のページ範囲を選択したときに、各ページ範囲で設定が異なる場合は、「出力用紙サイズ」は「混在」、その他の項目は「ページ範囲ごと」または「ページ範囲ごとの設定に従う」と表示されます。

● 用紙供給箇所を設定する場合：

- 「用紙選択」を押します。



- 給紙箇所から用紙を指定する場合は、「用紙力セットで指定」を押して、給紙箇所を選択したあと、「OK」を押します。



を押すと、選択されている用紙の詳細情報が表示されます。

- 用紙種類から用紙を指定する場合は、「用紙種類で指定」を押して、リストから用紙を選択したあと、「OK」を押します。



- 画面に表示される以下のアイコンは、それぞれ次の意味を示しています。
 - [複製] または [用紙データベース] から登録して、設定を変更していない用紙
 - [複製] または [用紙データベース] から登録して、設定を変更した用紙
- ドロップダウンリストで、表示する用紙種類を選択できます。
 - [すべて] : 基本用紙とユーザー設定用紙のすべての用紙種類を表示する
 - [基本用紙] : 基本用紙のみを表示する
 - [ユーザー設定用紙] : ユーザー設定用紙のみを表示する
- リストのソートドロップダウンリストで、登録順、名称順、坪量順にリストの並べ替えができます。

● 中間調の設定をする場合：

☐ [中間調]を押します。

☐ 中間調の表現方法を選択します。

「テキスト」、「グラフィックス」、「イメージ」といったデータの種類ごとに設定することができます。

〔高解像度〕は、テキストデータ等の輪郭がはっきりと見えるような精細な印刷を行うことができます。文字や細い線のデータなどをプリントするのに適しています。

〔階調〕は、滑らかな階調と輪郭がはっきりと見えることを両立した印刷を行うことができます。グラデーションを使用した図形やグラフなどをプリントするのに適しています。

〔誤差拡散〕は、〔高解像度〕よりも高精細な印刷を行うことができますが、質感の安定性は若干劣ります。文字や細い線のデータ、CAD データなどの輪郭をシャープにプリントするのに適しています。

☐ [OK]を押します。

● トナー濃度の設定をする場合：

☐ [トナー濃度調整]を押します。

☐ 印字濃度を調整します。



本項目は、「トナー節約」を[しない]に設定した場合にのみ表示されます。プリントするときのイエロー、マゼンタ、シアン、ブラックのそれぞれの印字濃度を調整します。設定範囲は -8 ～ +8 の 17 段階で、目盛りの中央が工場出荷時の値 (0) です。

[+] を押すと目盛りが右に移動して、印字濃度が濃くなります。

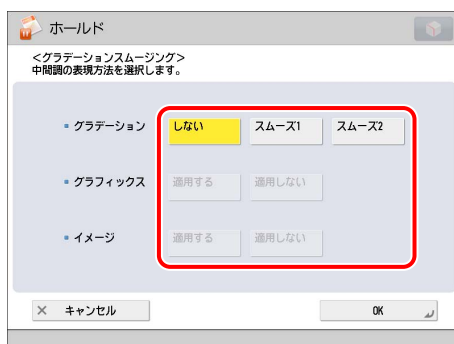
[-] を押すと目盛りが左に移動して、印字濃度が薄くなります。

☐ [OK]を押します。

● グラデーションスムージングの設定をする場合：

☐ [グラデーションスムージング]を押します。

☐ グラデーションの表現方法を選択します。



〔グラフィックス〕と〔イメージ〕の〔適用する〕は、「グラデーション」が〔スムーズ1〕または〔スムーズ2〕に設定されている場合にのみ表示されます。グラフィックス（アプリケーションソフトで作成されたイラスト）やイメージ（ビットマップ）などの画像データのグラデーションが滑らかにプリントできない（色の変わり目が目立つ）ときに本項目を設定します。

〔スムーズ1〕よりも〔スムーズ2〕の方がより滑らかなグラデーションになるようなスムージング処理を行います。

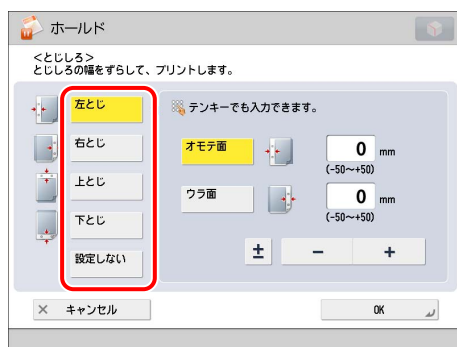
まず、[スムーズ 1] に設定し、それでもグラデーションが滑らかにならない場合は、[スムーズ 2] に設定してください。

また、[グラフィックス] と [イメージ] の [適用する] / [適用しない] を切り替えることによってスムージング処理を行う対象を選択することもできます。

- ☐ [OK]を押します。

● **とじしろを設定する場合：**

- ☐ [とじしろ]を押します。
- ☐ とじしろの種類を選択します。

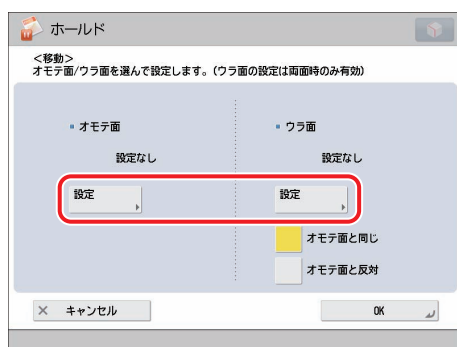


- ☐ [オモテ面]、[ウラ面]の各キーを押して、[-] [+]を押してとじしろ幅を設定したあと、[OK]を押します。

 **メモ** 0 以外のとじしろ幅を入力したときに [±] を押すと、+ と - を入替えることができます。
例： (+)10 → [±] → -10
-50 → [±] → (+)50

● **印字領域の移動を設定する場合：**

- ☐ [印字領域の移動]を押します。
- ☐ オモテ面またはウラ面の [設定] を押したあと、移動する幅を ①～⑨ (テンキー) で入力し、[OK]を押します。



- ☐ [OK]を押します。

